

YAMAHA XS1100LG MIDNIGHT SPECIAL

1:6 SCALE

SUPER DETAILED YAMAHA DOHC FOUR ENGINE
MOVABLE FRONT AND REAR SUSPENSION
SUPER DETAILED SEMI-PNEUMATIC RUBBER TYRES
DETACHABLE SEAT AND SIDE COVERS

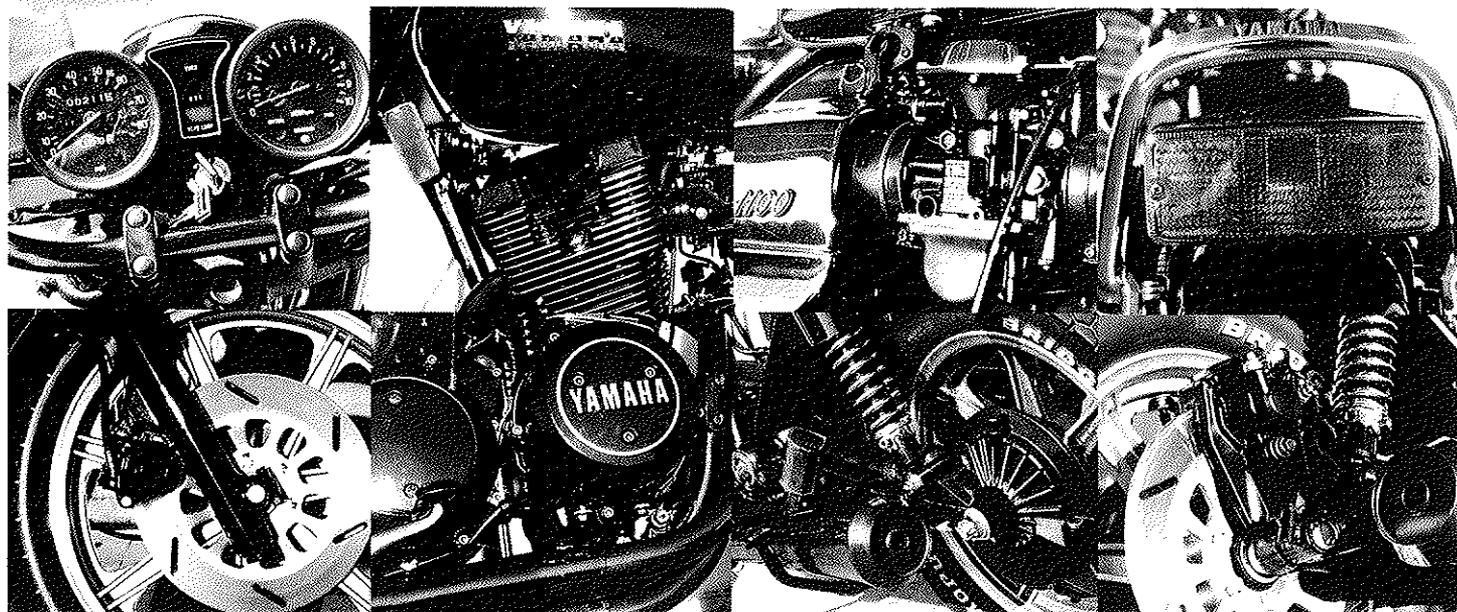
BIG SCALE 1/7



TAMIYA

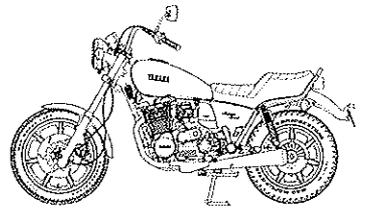
TAMIYA PLASTIC MODEL CO.
3-7 OKINAWA SHIZUOKA-CITY, JAPAN

ヤマハXS1100LGミッドナイトスペシャル



YAMAHA XS1100LG MIDNIGHT SPECIAL

協力：
ヤマハ発動機株式会社



アメリカンタイプの誕生

ピーター・フォンアの主演で話題を集めた「イージー・ライダー」をはじめ、アメリカ映画の中には、たびたび独特なスタイルをしたオートバイが登場します。大きく傾斜して前方に長くのびたフロントフォーク、小さくて細いフロントタイヤ、そして対角的に太いリヤタイヤ、後部シートが一段盛り上がった段つきのタンデムシート、大きなアップハンドルなどの特徴を持つこのオートバイが、アメリカで見かけるチョッパーと呼ばれるバイクです。

チョッパーバイクの特徴はスタイルだけではなくありません。そのライディングポジションもまた独特なものです。ホースバックライディングと呼ばれるそのライディングフォームは、上体をうしろにそらし、両足を前方にはしたゆったりとしたもの。いかにも、広大なアメリカのまっすぐのびたハイウエーを走るのにふさわしいスタイルと言えます。チョッパーバイクが映画や雑誌で日本にも広く紹介されるようになると、そのスタイルにあこがれるファンも増え、人気も高まってきたのです。それに応えるように、日本のオートバイメーカーもチョッパー風オートバイをそのラインアップに加えるようになります。日本の法規上、アメリカのチョッパーのような極端なスタイルこそできなかったものの、ホースバックライディングを可能にしたオートバイ、日本製チョッパーバイクがアメリカンと呼ばれるモデルです。

ヤマハのアメリカン

オートバイは自動車とともに人間の行動範囲を大きく広げる役目をはたしてきました。モータリゼーションの発達初期には、人間の足として幅広く使われていましたが、自動車の大きな進歩と一般化によってオートバイは実用的な面より、むしろ、スポーツ性、趣味性が高くなっていったのです。そんな中で、乗り方や使い方によってさまざまな種類のオートバイが要求されるようになってきました。林道や荒野を走るためのオートバイとしてオフロードバイクが作られ、長距離走行用としてツーリングモデルが作られ、よりスポーティーな走りを楽しむためのスポーツタイプが作られたりしています。また、国によっても

その国の道路事情などにより、異なったタイプのオートバイが求められます。今や世界的なシェアを持つ日本のオートバイメーカーがそれらに合わせてさまざまな車種を用意しているのは当然のことでしょう。世界のトップメーカーである、ヤマハ発動機も数多くのオートバイを揃えているメーカーです。そのヤマハのカatalogの中で、日本およびアメリカ向けとして用意されているモデルにスペシャルと呼ばれるタイプがあります。アメリカンタイプの代名詞とまで言われるオートバイがこのスペシャルなのです。

ヤマハがスペシャルを登場させたのは1978年のことでした。すでに発売され、好評を集めていたGX750のエンジンを使用したオートバイは、フルバックタイプと呼ばれる大きなアップハンドルを備え、シートは段つきのタンデムシート、短かめのメガホンマフラーなどの特徴を持っていたのです。このモデルはXS750スペシャルと名づけられ、ホースバックライディングにあこがれていた日本ファンはもとより、チョッパーの本場アメリカでも高い人気を集めました。その後、アメリカンタイプの人気の高まりとともに、各排気量ごとにスペシャル仕様のモデルが追加されていったのです。

スペシャルシリーズの旗艦

ヤマハのオートバイの中で、最大の排気量を持つXS1100、通称「イレブン」が発売されたのは1977年のことですが、このモデルにも1979年になってアメリカンタイプのスペシャルが登場します。高速ツアラーとして作られたXS1100と共通のエンジンを使って、軽快なチョッパー風スタイルを与えられたXS1100スペシャルは、アメリカ向け輸出専用車として高い人気を獲得。そして、その年の秋、東京モーターショーの会場では、XS1100スペシャルの80年型モデルとも呼べるXS1100LGミッドナイトスペシャルが発売されたのです。

ミッドナイトスペシャルというネーミングが施されたこのオートバイは好評のXS1100スペシャルをカラーリングを中心にさらにムードアップしたもので、スペシャルの特別仕様とも言えるオートバイです。エンジンはXS1100と同じ4サイクルの空冷並列4気筒DOHC

エンジンを搭載。排気量は1101ccで最高出力95馬力を誇るパワフルなエンジンですが、低速でもおぼろり発揮し、アメリカンタイプならではのイージーライディングを可能にしています。ボア・ストロークは71.5mm×68.6mmで1気筒あたり2つのバルブを装備。このエンジンはおすかに角度をもって前傾して搭載されています。力強さを強調する一本の排気管は左右におけられ、エンジン下側で2本づつにまとめられて短かめのメガホンマフラーにつながります。エンジンのパワーをリヤタイヤに伝達するのはシャフトドライブ方式。歯車の加工などには高い技術とコストがかかる方式ですが、チェーン駆動方式と違って張りの調整といったメインテナンスが少なくすむこと、また、チェーンのようにオイルが飛んでよごれることもないほか、走行中に切れたり、はずれたりといった危険もないなどの長所を持っているのが特徴です。ヤマハの技術力の高さを示すシャフトドライブ機構は、200キロを超える最高速を誇る高性能車にとって最適の、また、高級車ならではのメカニズムと言えるでしょう。

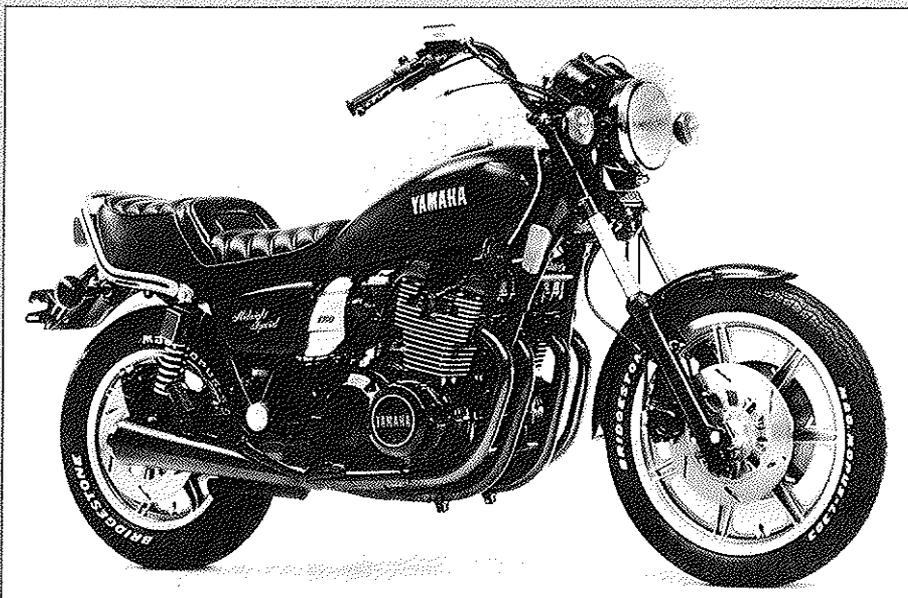
フレームは高張力鋼管を使用したダブルクレードルタイプ。XS1100とは違うスペシャル専用の設計が施されていることは言うまでもありません。そして、ブレーキはフロントがダブルディスク、リヤもディスクを採用したトリプルディスクブレーキ。高性能に合った確実な制動を約束する豪華装備です。また、ホイールは国産オートバイで初めてキャストホイールを採用したヤマハならではの7本スポークのキャストホイールを採用。ヤマハのステータシンボルとも言えるモデルだけに各部のメカニズムにはヤマハ技術の粋を見ることができま

さらに、メカニズム面ばかりでなく、そのスタイルとカラーリングもヤマハならではのセンスにあふれています。ティアドロップ型のカソリックタンクとそれに続くゆったりとした段つきシート。大きなフルバックタイプのハンドル、さらに、フロント19インチ、リヤ16インチというタイヤによって形作られるスタイルは、78年にXS750スペシャルでチョッパー風デザインの先駆けを作った以来、アメリカンの代名詞とまで言われるようになったヤマハのスペシャルシリーズならではのデザインです。加えて、タンク、エンジン、マフラー、フェンダーに至るまでブラック仕上げとし、エンブレムやヘッドライトリム、エアクリナーケースのサイド、ホイール、ブレーキディスクなどにゴールドを配したカラーリングが、そのスタイルをさらに強調しています。それまで、アメリカンタイプのカラーリングではクロームメッキやハチマキカラーが一般的であっただけに、このブラック&ゴールドのカラーリングは新鮮なものでした。

メカニズムに、また、スタイルに、ヤマハのすべてがぎ込まれたXS1100LGミッドナイトスペシャルは、スペシャルシリーズがなとりつたひとつの頂点を示すモデルと言えるでしょう。

〈主要データ〉

ホイールベース	1545mm
重量	252kg
エンジン	DOHC並列4気筒：1101cc
最高出力	95PS/8000rpm
クラッチ	湿式多板
ミッション	5速リダグ方式



作る前にならずお読み下さい。

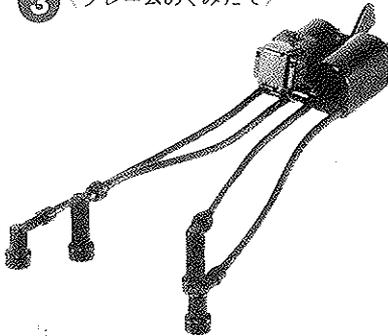
★お買い求めの際、また組立ての前には必ず内容をお確か下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組立てを始めた後は、製品の返品、交換などには応じかねます。
★このセットには接着剤が含まれていません。接着にはプラスチックモデル用接着剤、タミヤセメントを別にお求め下さい。

★キットの組立てに入る前に、あらかじめ説明文をよく読んで下さい。
★ニッパー、ピンセット、ナイフ、ドライバー等の工具を用意して下さい。
★メッキ部品を接着する時は、必ず接着面のメッキをはがして下さい。

●これは塗装指示のマークです。
組立図中とP16のペインティングに塗装指示がしてあります、又ページごとのペインティングを参考にして塗装を楽しんで下さい。
★塗料は、必ずプラスチックモデル用塗料をお使い下さい。

■組立図中の青く印刷されている所は、接着部分です。

3 (フレームのくみ立て)



PAINTING

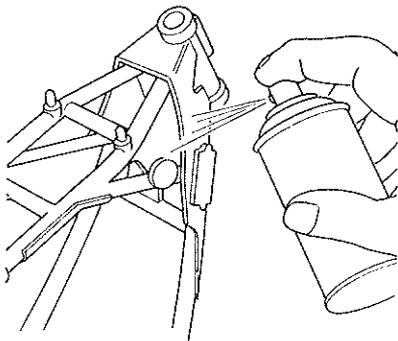
● 塗装作業は、あなたの創作意欲を十分に満足させることでしょう。説明図の各ページに基本的な塗装説明が入っています。これを参考にあなただけのモデルを作って下さい。すばらしい完成をお約束します。

〈塗装するタイミング〉

同じ色に塗る部品は出来るだけ組立ててから塗装するのがコツです。接着剤のはみだし、合せ目のくまはよくヤスリをかけてから塗装します。小さなビス1本にまで気をくばして下さい。

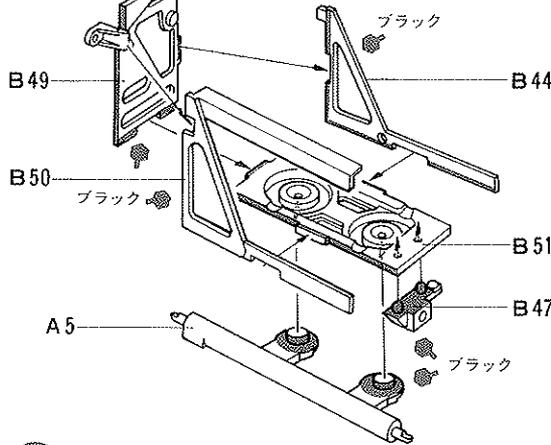
〈フレームの塗装〉

フレームを塗装する場合、スプレー塗料か幅の広い平筆を使い、ていねいに塗り残しのないようフレームを塗ります。

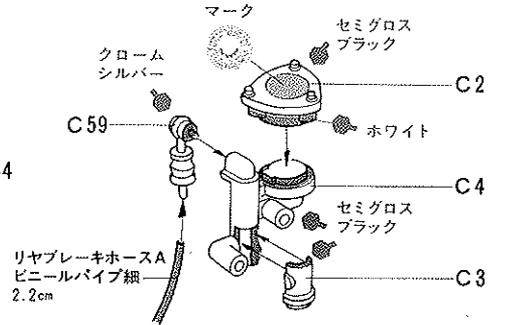


1 フレーム部品のくみ立て

〈バッテリーケース〉

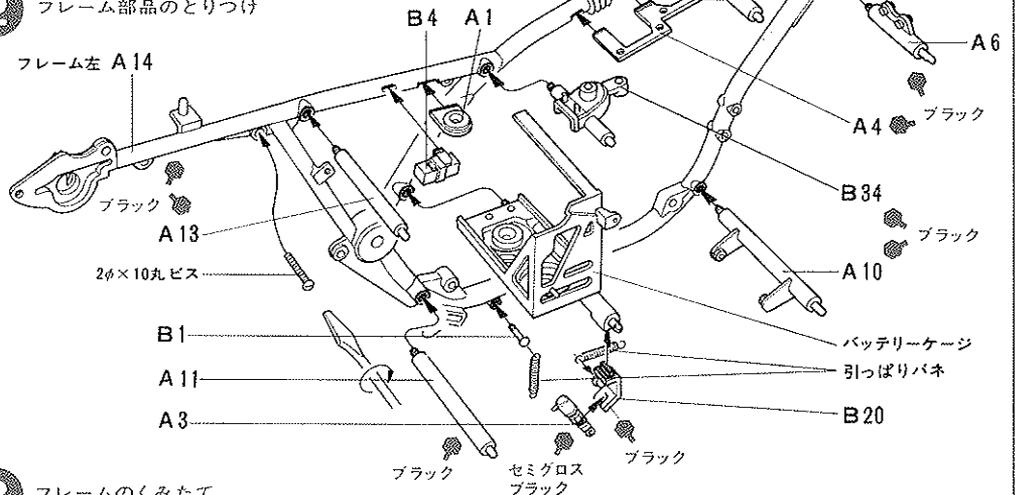


〈リヤブレーキシリンダー〉



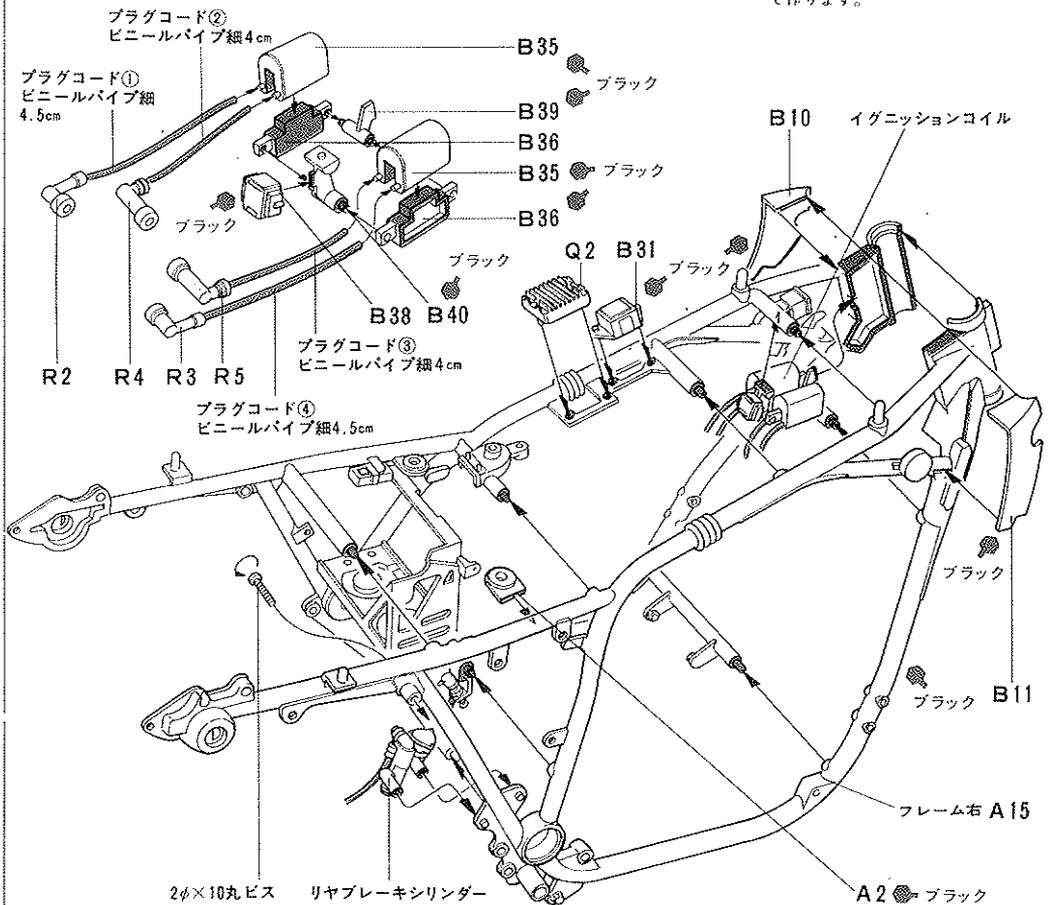
2 フレーム部品のとりつけ

フレーム左 A14

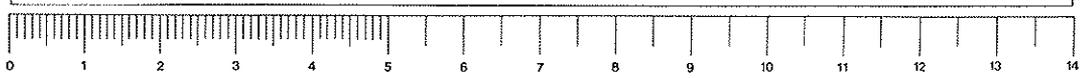


3 フレームのくみ立て

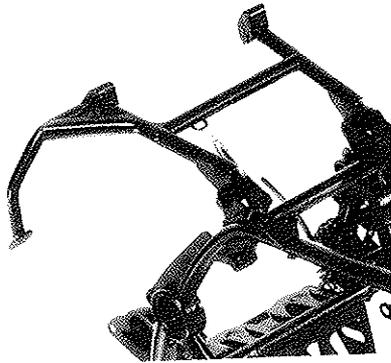
〈イグニッションコイルのくみ立て〉



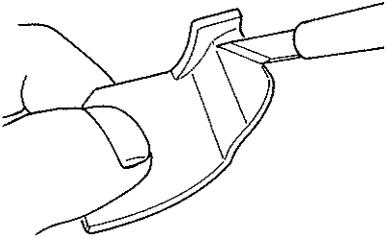
●セミグロスブラックはブラック:1 フラットブラック:1で作ります。



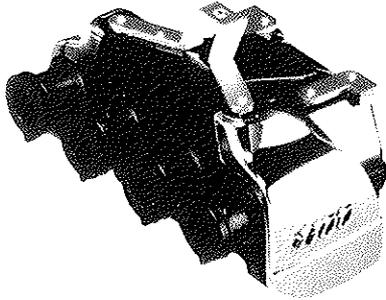
- ④ 〈メインスタンドのとりつけ〉
K24にとりつける引っぱりパネはB1の接着がかわいてからとりつけて下さい。



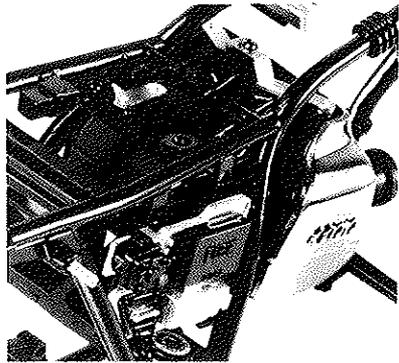
〈メッキ部品の接着〉
メッキ部品は接着部のメッキをはがしてからくみたまます。



- ⑤ 〈エアクリーナーケースのくみたまて〉



- ⑥ 〈エアクリーナーケースのとりつけ〉



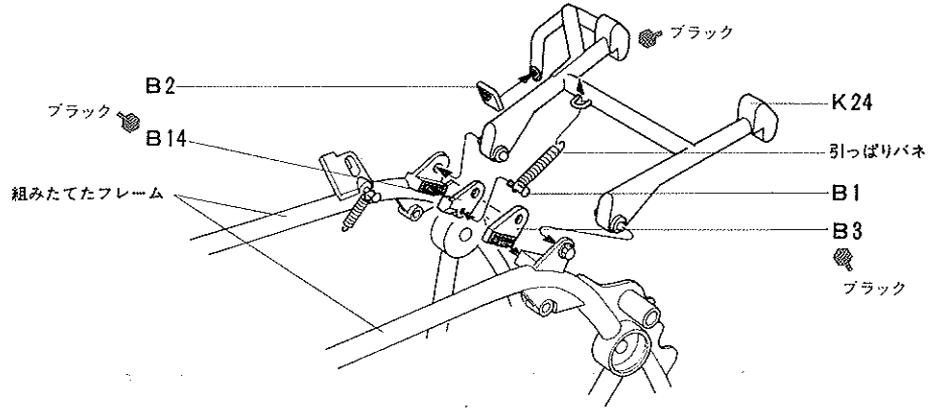
PAINTING

〈メッキの補修〉
クロームシルバーやゴールドリーフを使って、メッキのはがれた所を補修して下さい。筆は穂先の長い細筆を使います。

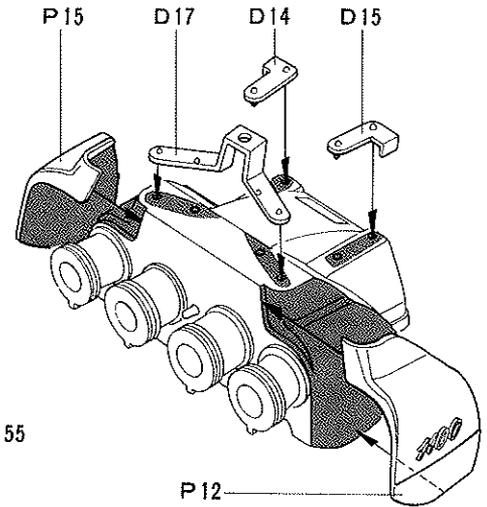
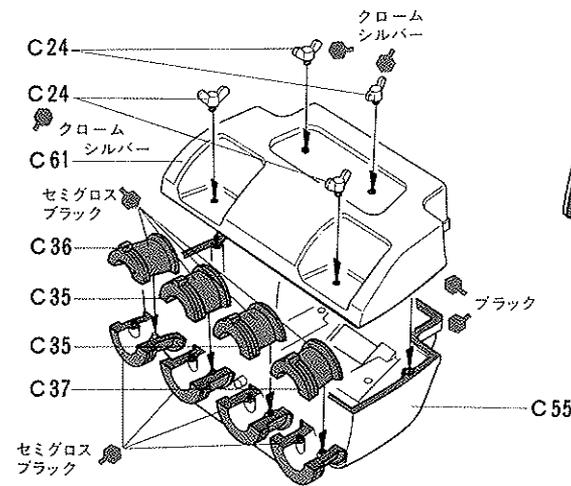
★筆は穂先の長い細筆を使います。



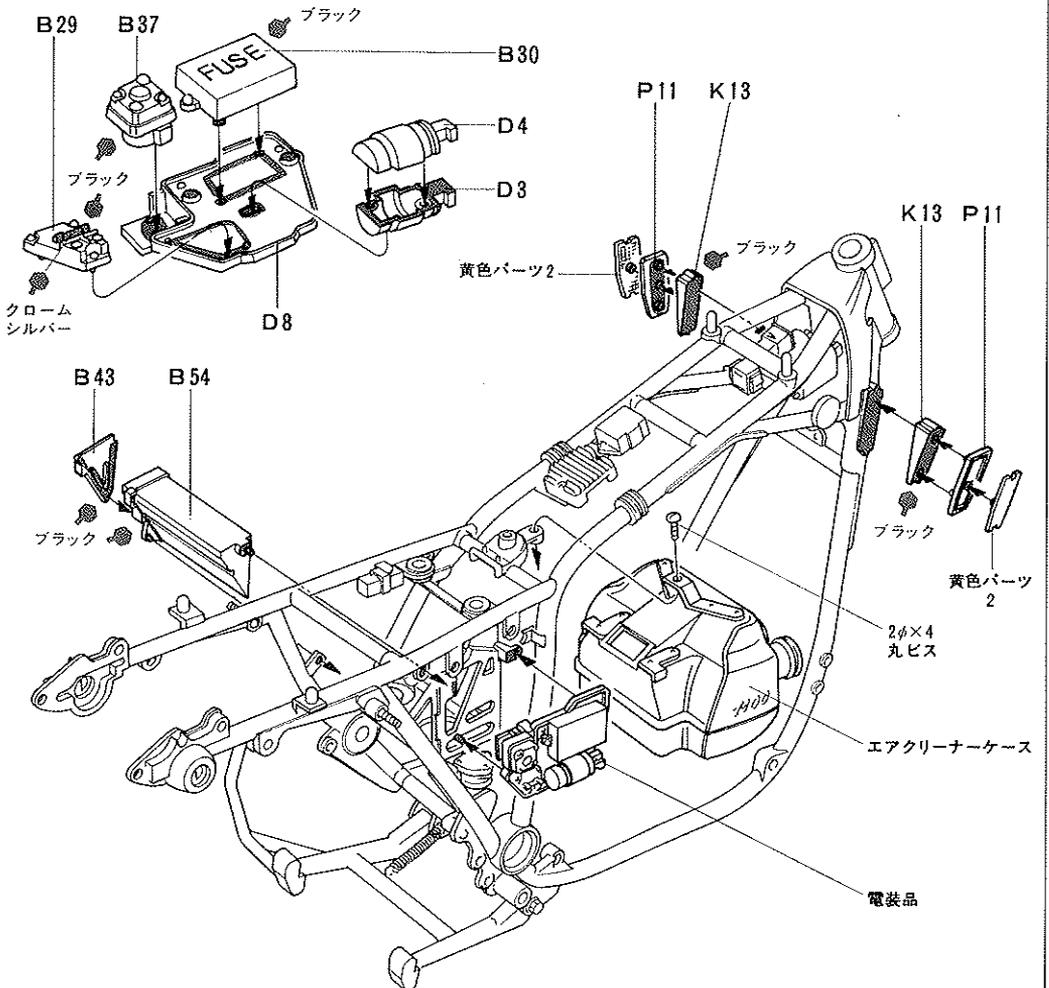
- ④ メインスタンドのとりつけ



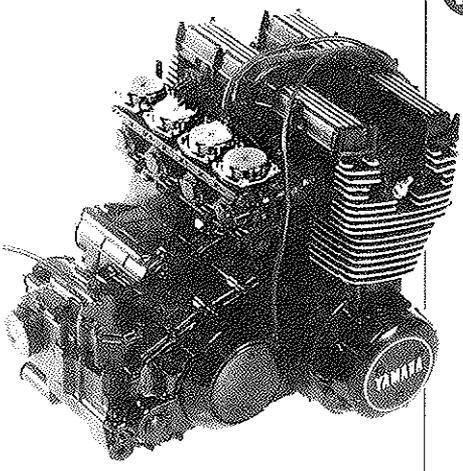
- ⑤ エアクリーナーケースのくみたまて



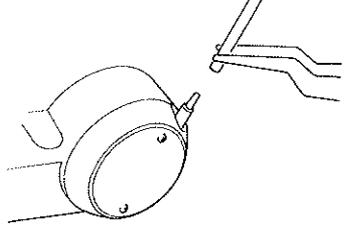
- ⑥ エアクリーナーケースのとりつけ
〈電装品のくみたまて〉



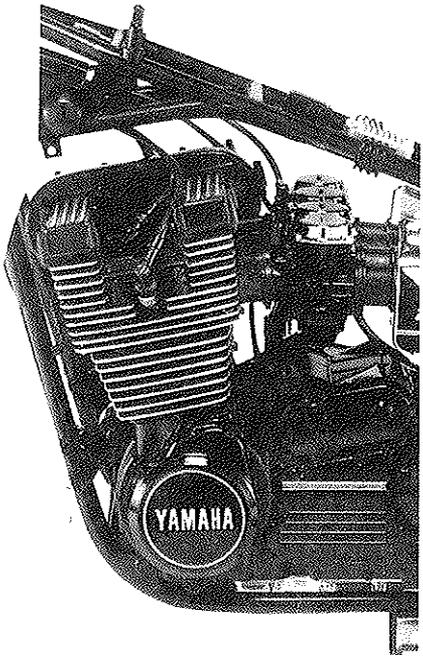
12 〈シリンダーのとりつけ〉



〈パイプのとりつけ〉
 ビニールパイプは、指示の長さに切りとりつけます。ピンセットを使用すると楽に作業ができます。

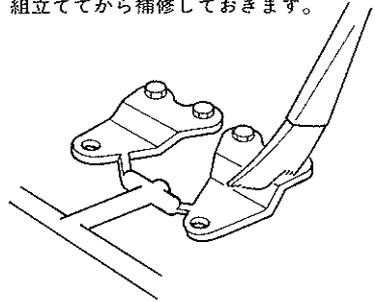


14 〈エンジンの固定〉



PAINTING

〈小さな部品の塗装〉
 小さな部品はランナーにつけたまま塗装します。部品を切りとったところは組立ててから補修しておきます。



12 シリンダーのとりつけ

アクセルワイヤー
 ビニールパイプ細
 17.5cm

C 68

キャブレター

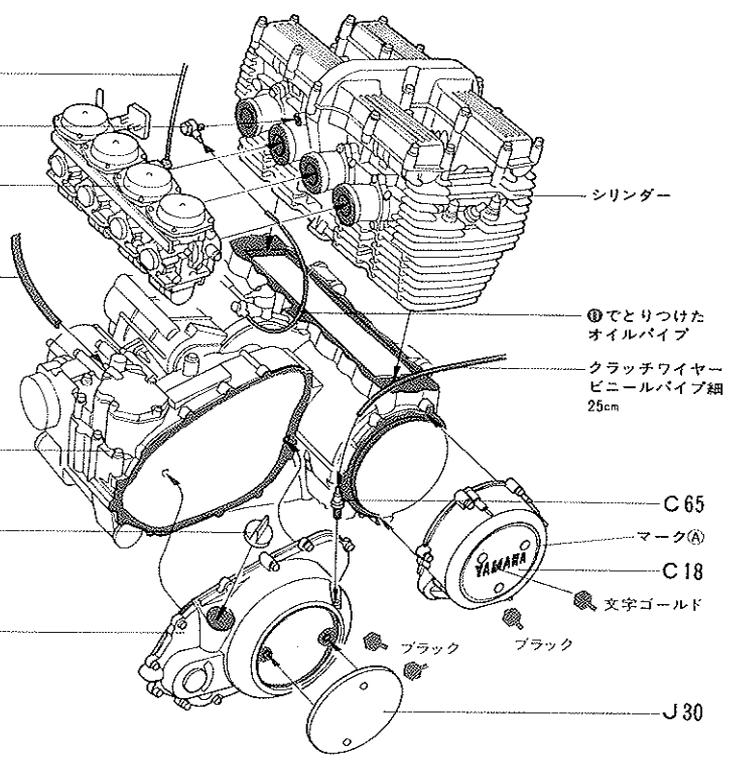
ブリーザーパイプ
 ビニールパイプ太
 5 cm

クランクケース

C 1

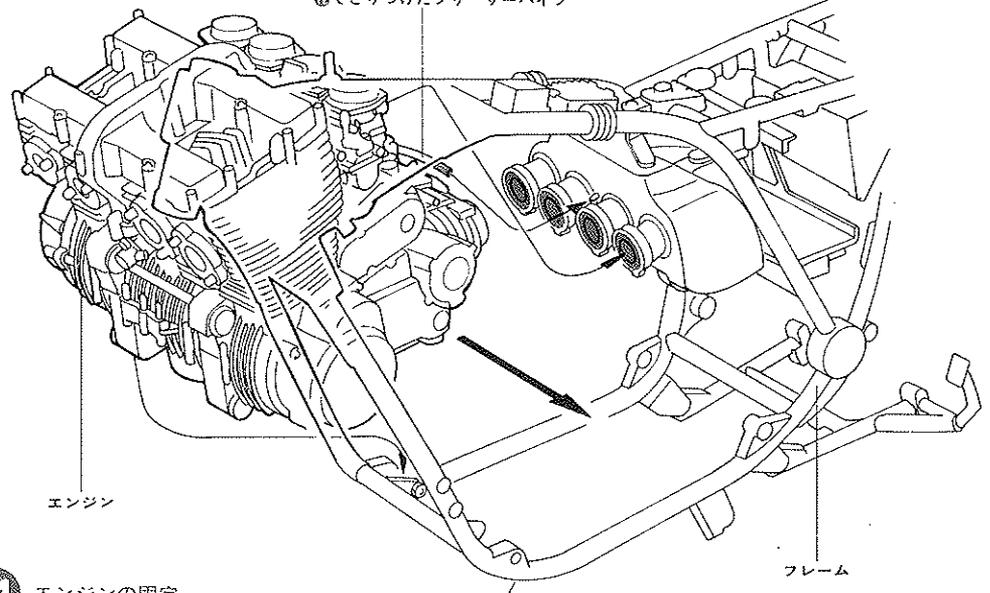
ブラック

C 17



13 エンジンのとりつけ

②でとりつけたブリーザーパイプ



14 エンジンの固定

③でとりつけた ②
 プラグコード

④でとりつけた ①
 プラグコード

C 6

ブラック

C 49

C 10

C 50

C 51

セミグロス
 ブラック

J 41

ブラック

K 6

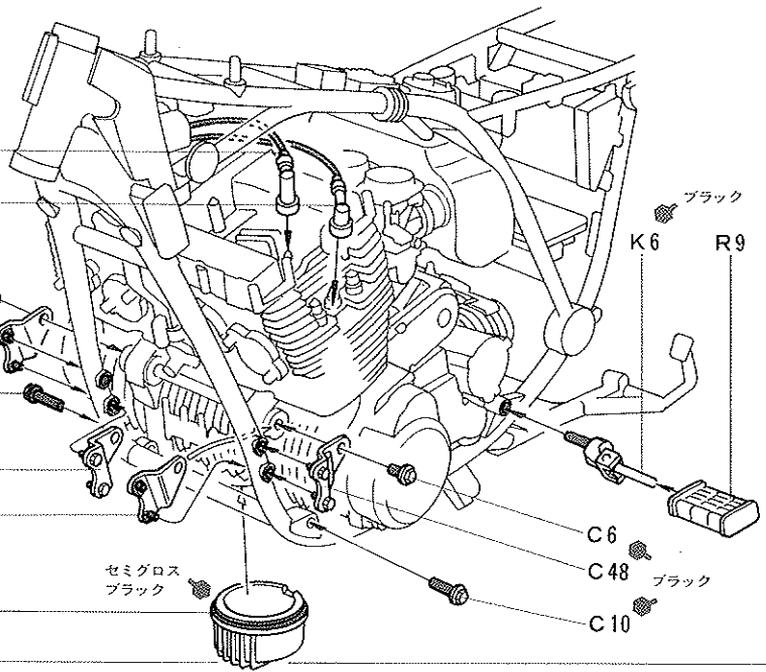
R 9

C 6

C 48

ブラック

C 10

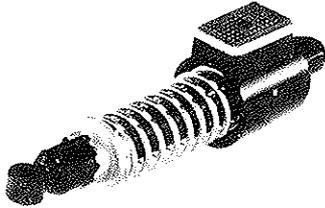


15 〈リアフェンダーのくみため〉

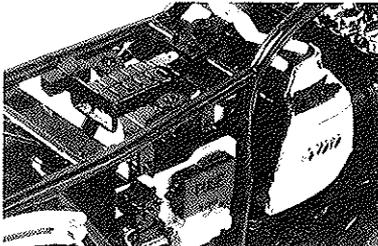


16 〈リアダンパーのくみため〉

K11は2φ×28丸ビスをK10にネジ込んでからとりつけて下さい。

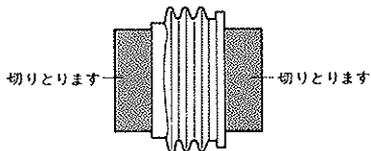


17 〈リアフェンダーのとりつけ〉

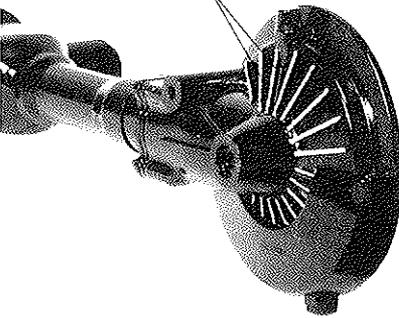


18 〈リヤシングアームのくみため〉

シャフトブーツは下図のように切りとって使用します。



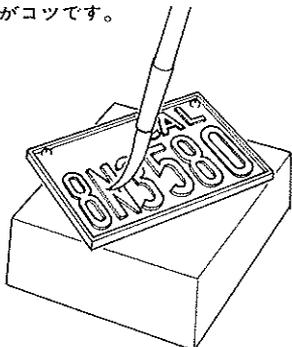
ゴールド



PAINTING

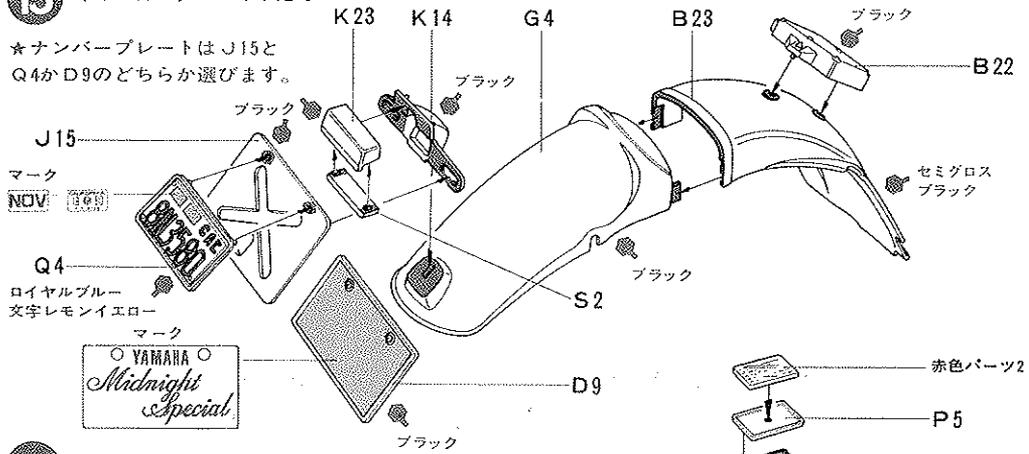
〈ナンバープレートの塗装〉

小さな台を使い、ナンバープレートを固定しておいて、ていねいに塗装するのがコツです。



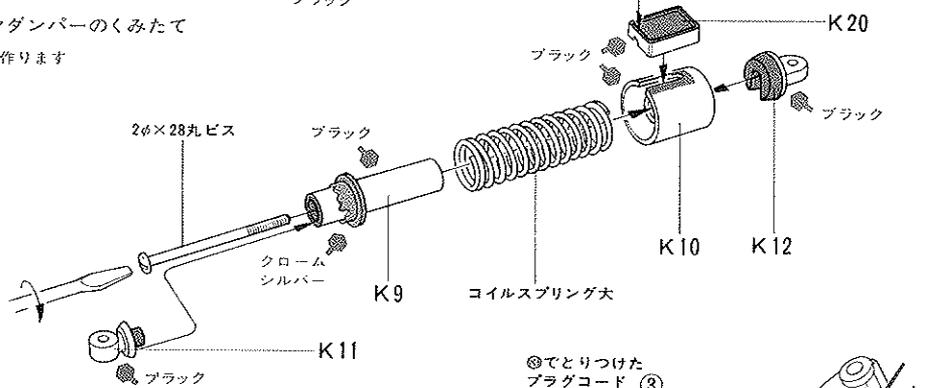
15 リアフェンダーのくみため

★ナンバープレートはJ15とQ4かD9のどちらか選びます。

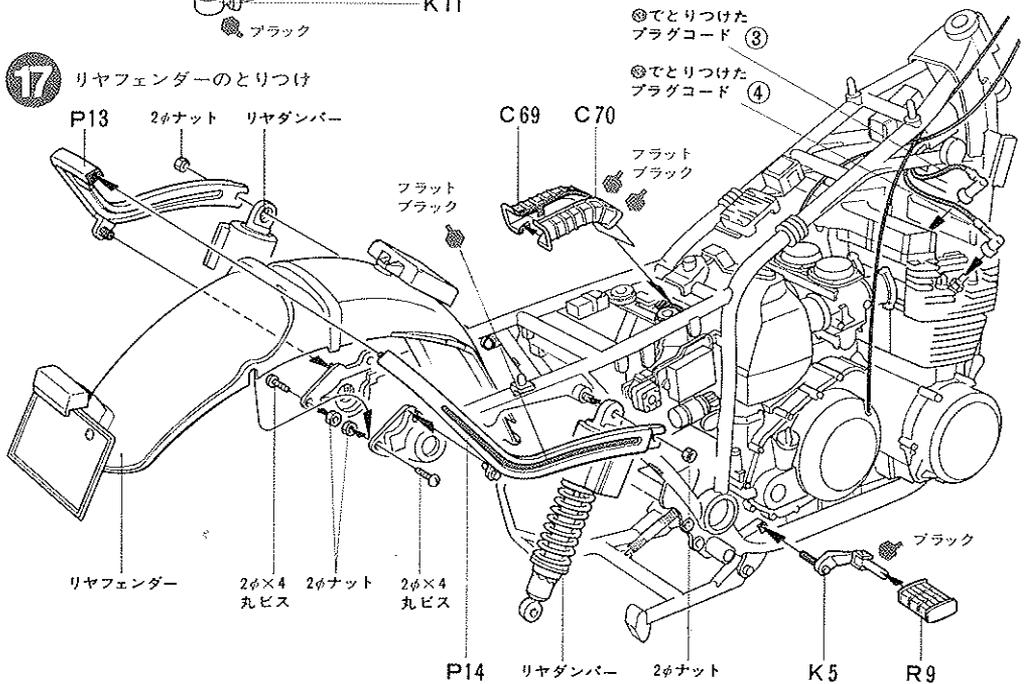


16 リアダンパーのくみため

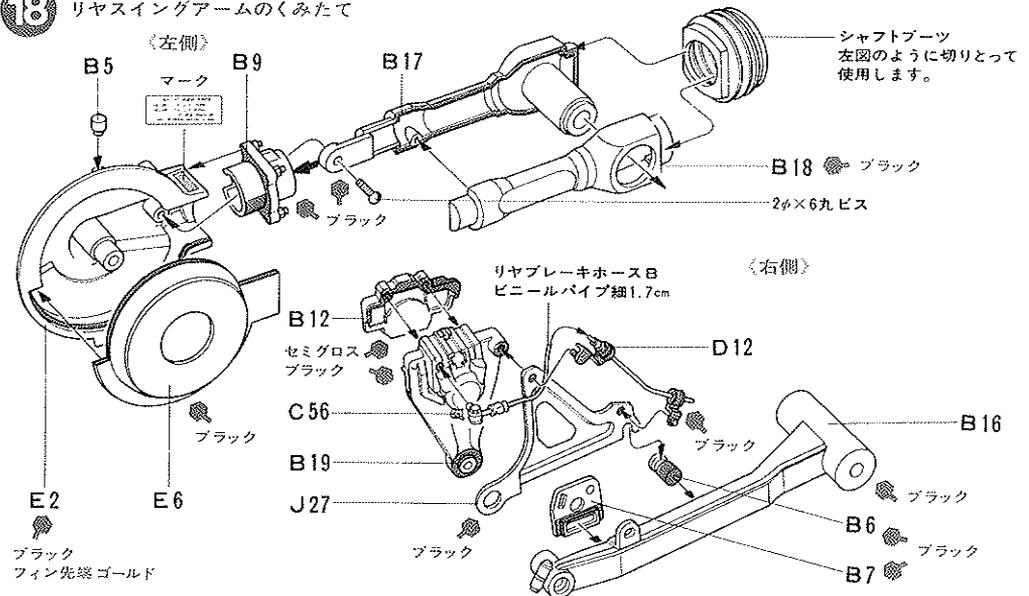
2個作ります



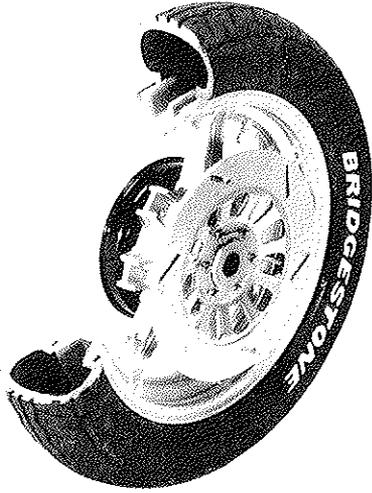
17 リアフェンダーのとりつけ



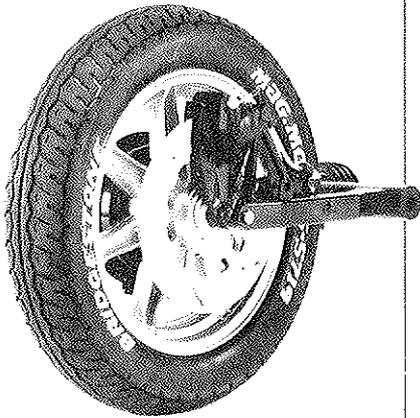
18 リヤシングアームのくみため



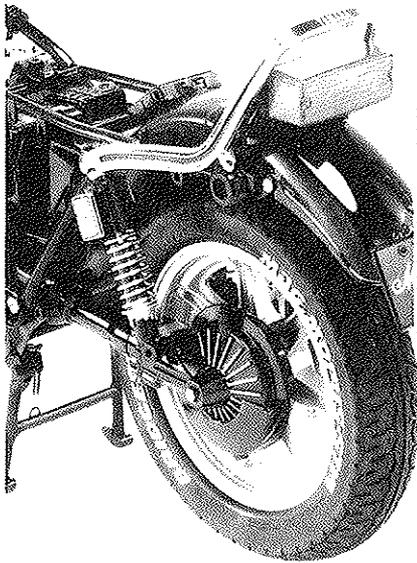
19 <リヤホイールのくみため>
 タイヤはホイールのみぞにきちんと
 はめ込んで下さい。



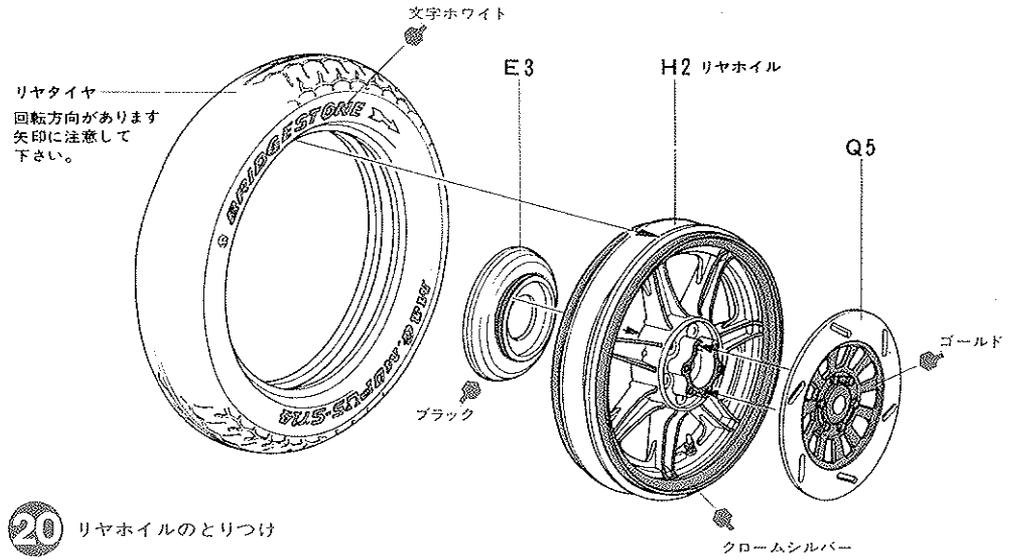
20 <リヤホイールのとりつけ>



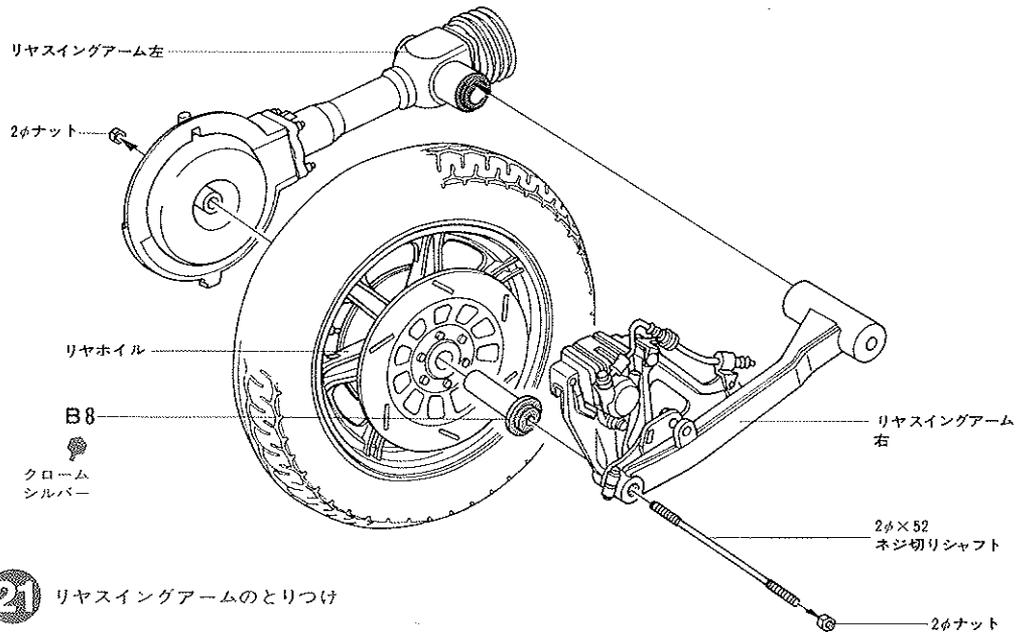
21 <リヤスイングアームのとりつけ>



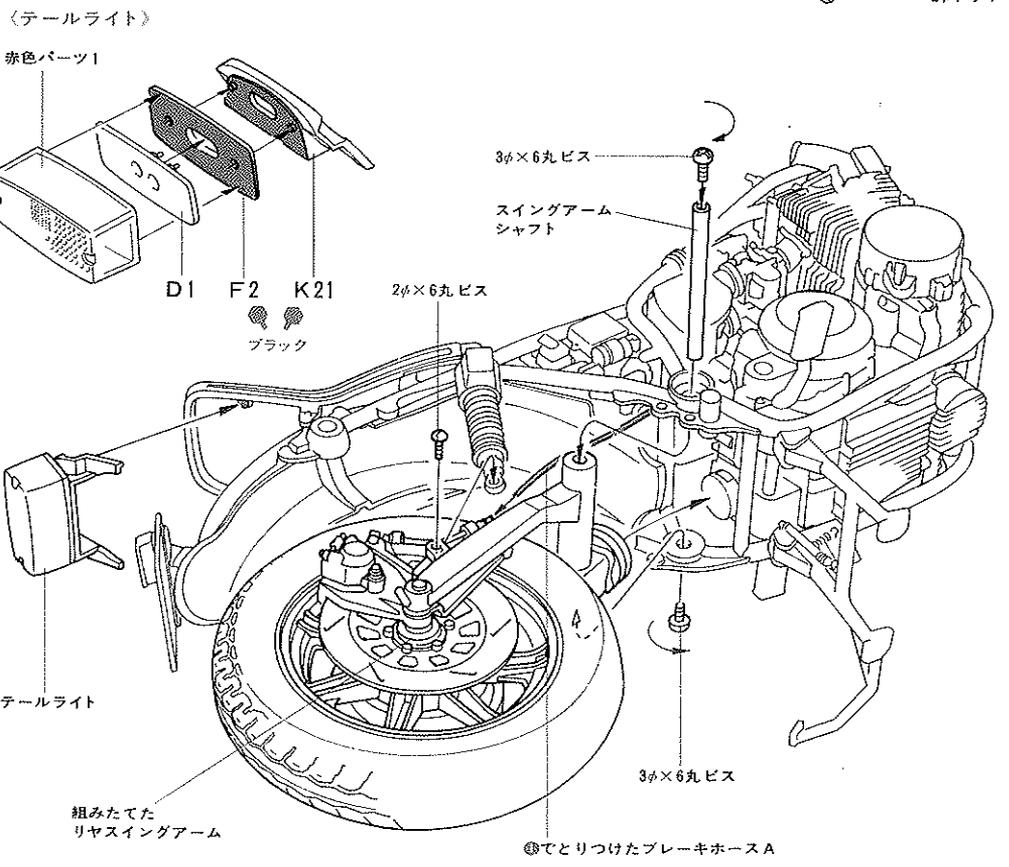
19 リヤホイールのくみため



20 リヤホイールのとりつけ



21 リヤスイングアームのとりつけ



TAMIYA COLOR

タミヤカラー(アクリル塗料)

ぬりやすいアクリル樹脂の塗料です。筆は水洗いもできます。筆塗り、スプレーで美しい仕上がりが楽しめます。NET23cc



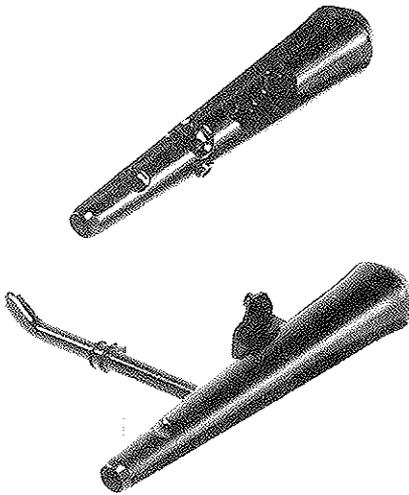
PAINT MARKER

タミヤ ペイントマーカー

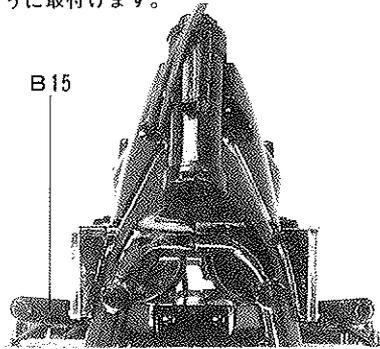
プラスチックモデル用に特に開発されたペイントマーカーです。筆などの準備もなしですぐ使える手軽さが魅力。エナメル系全12色。



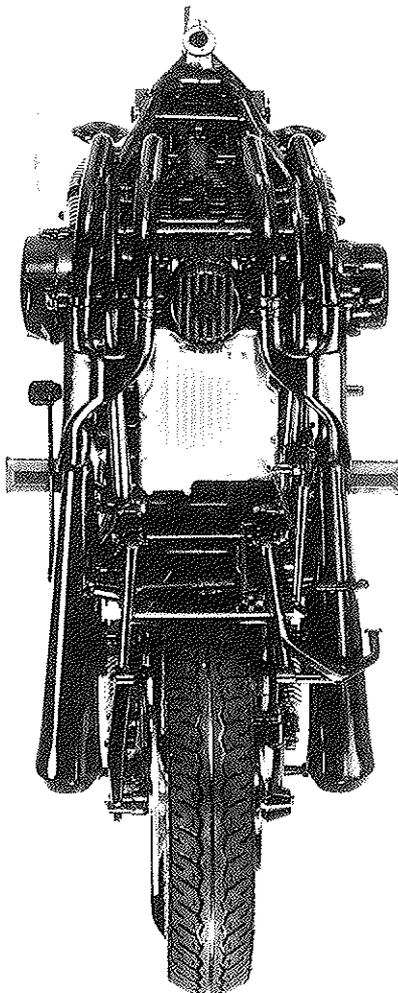
25 <マフラーのくみため>



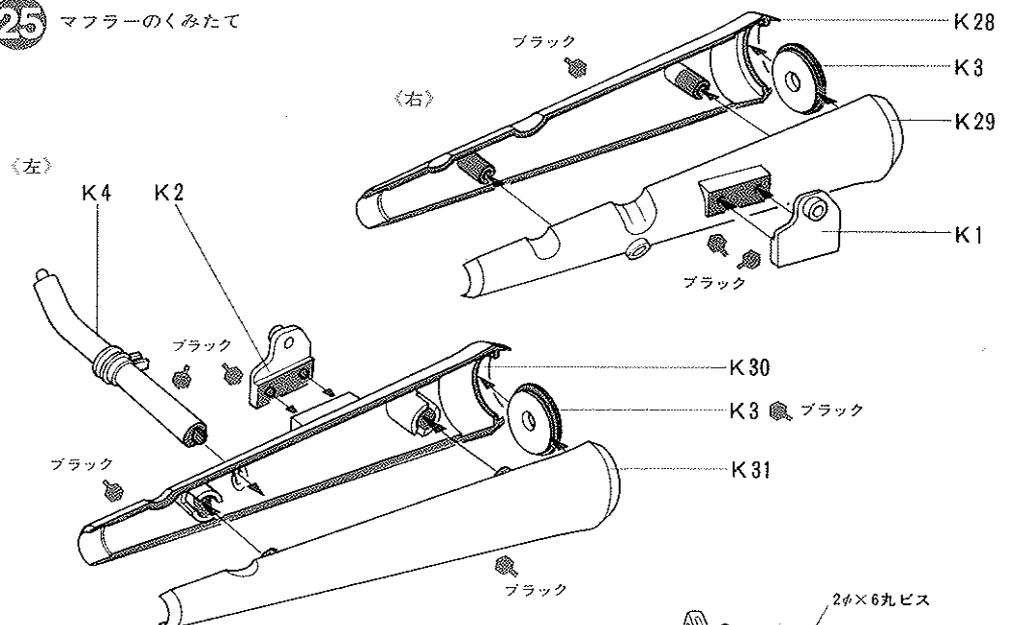
26 <マフラーのとりつけ>
ホーンステーB15は下の写真のよ
うに取付けます。



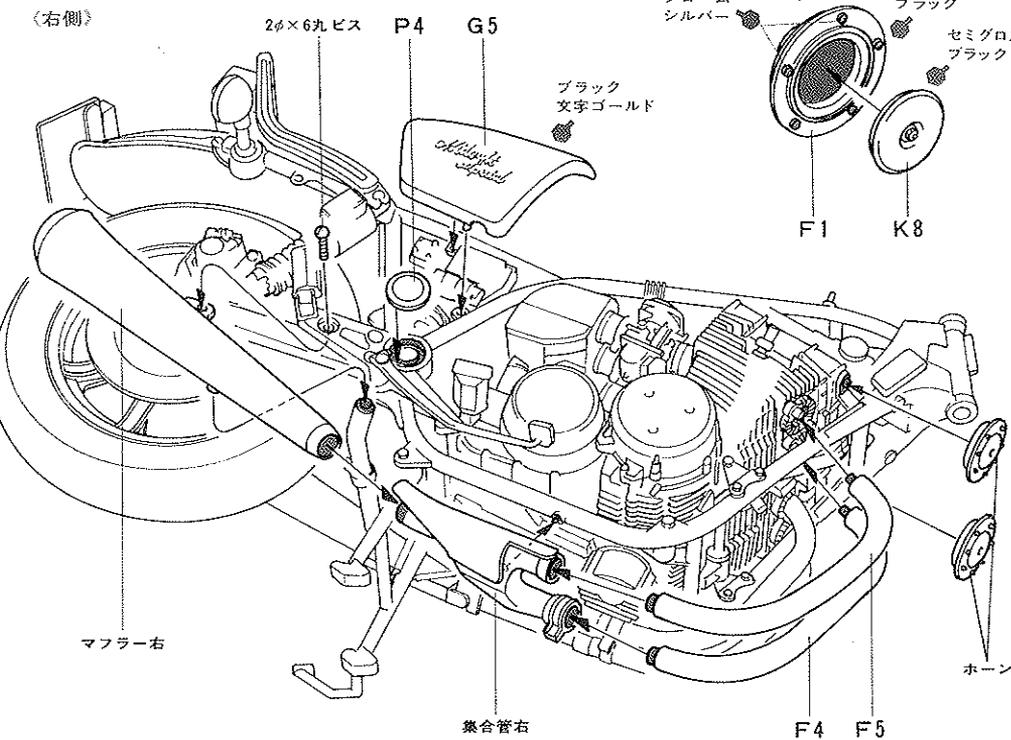
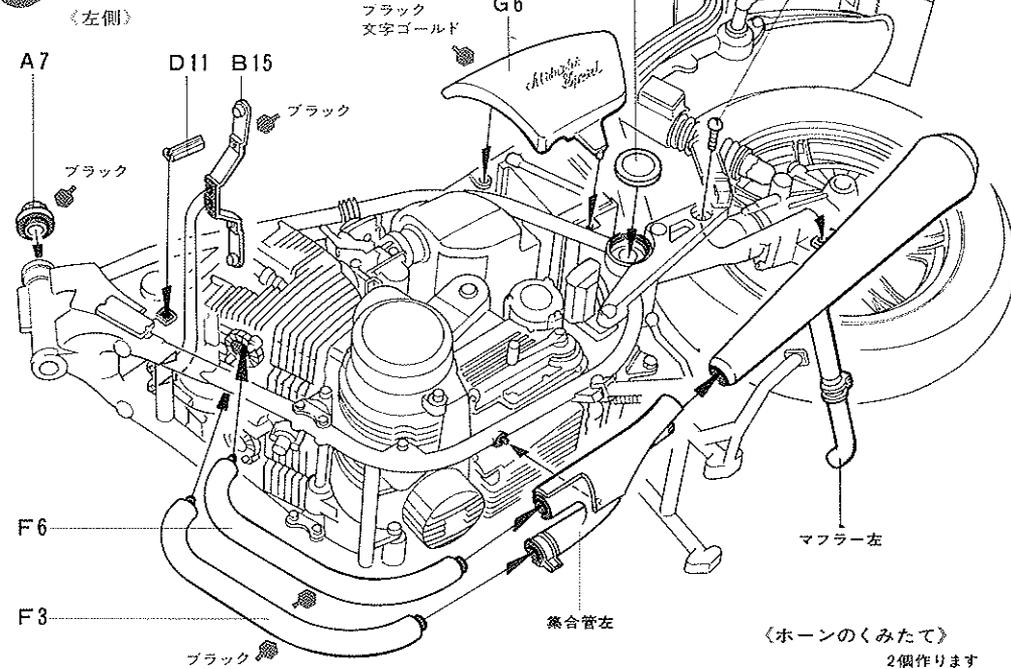
<マフラー取付け写真>



25 マフラーのくみため



26 マフラーのとりつけ



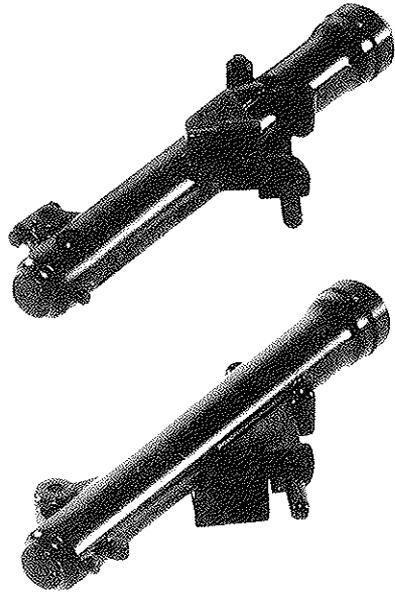
27 《メーターパネルのくみため》



28 《ヘッドライトのくみため》

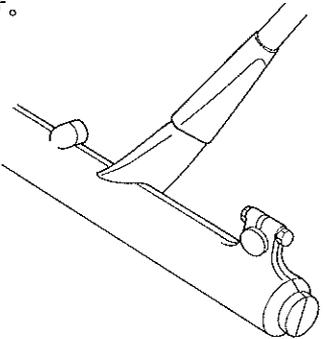


29 《ボトムケースのくみため》

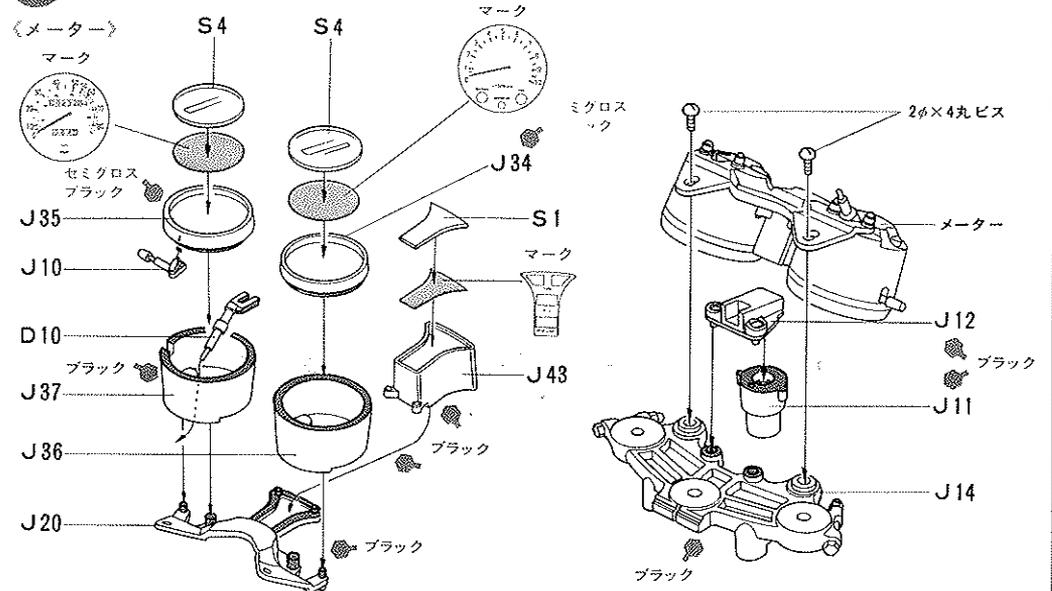


PAINTING

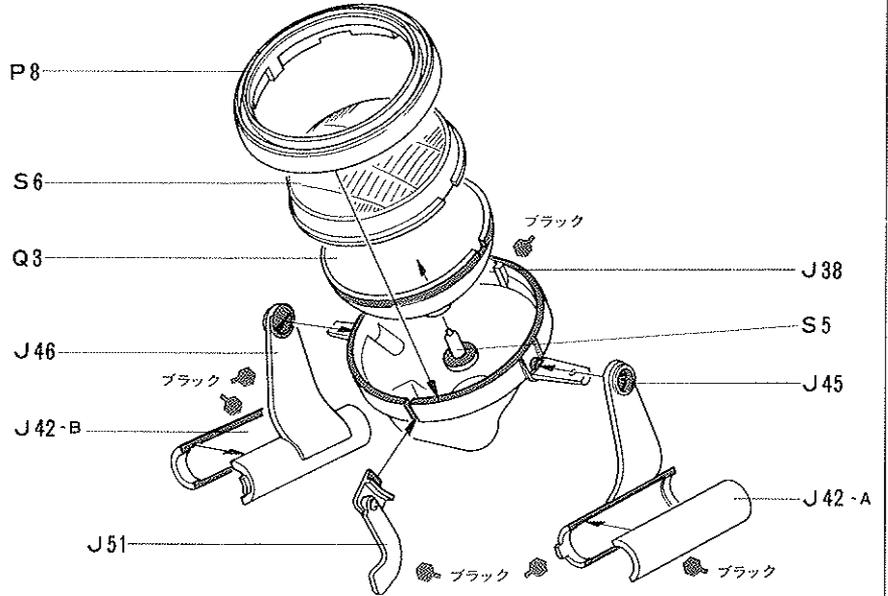
《フォークの塗装》
ナイフの刃を立てて円筒の合せ目をけずり、平らにしてから平筆で塗装します。



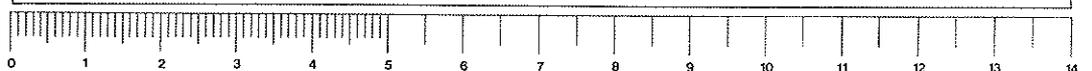
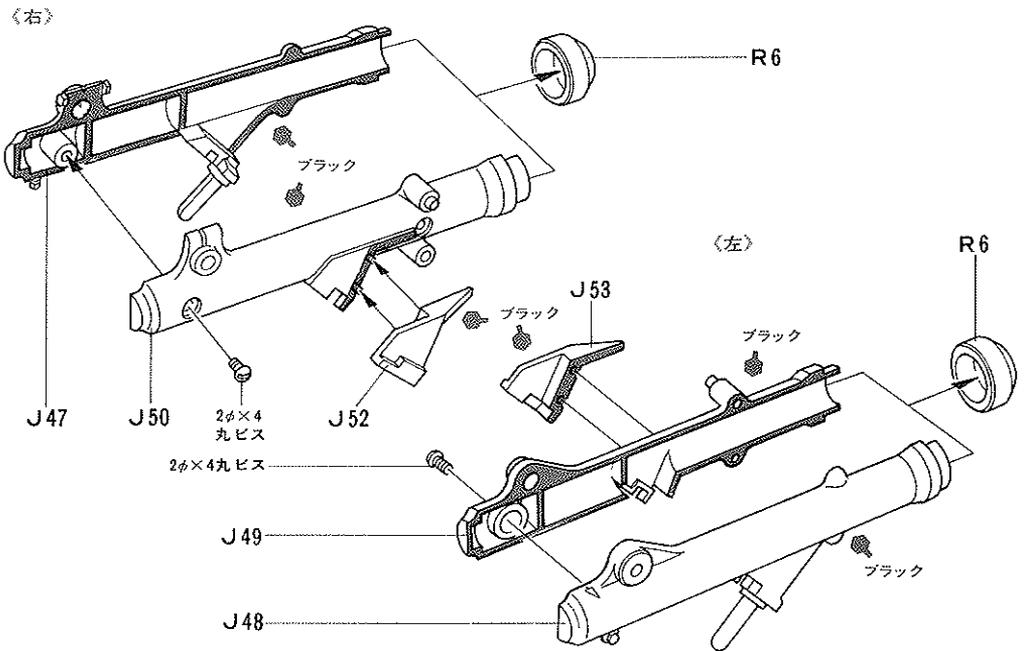
27 《メーターパネルのくみため》



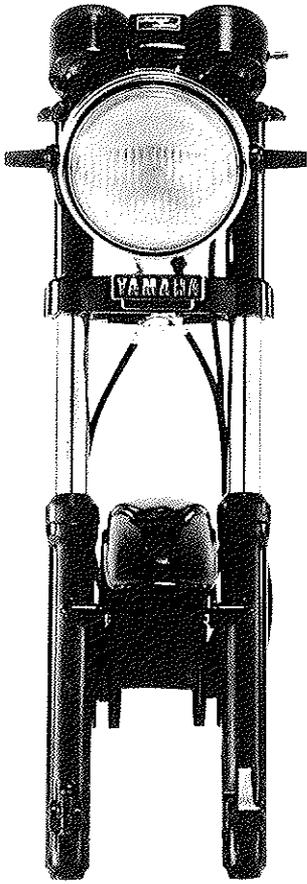
28 《ヘッドライトのくみため》



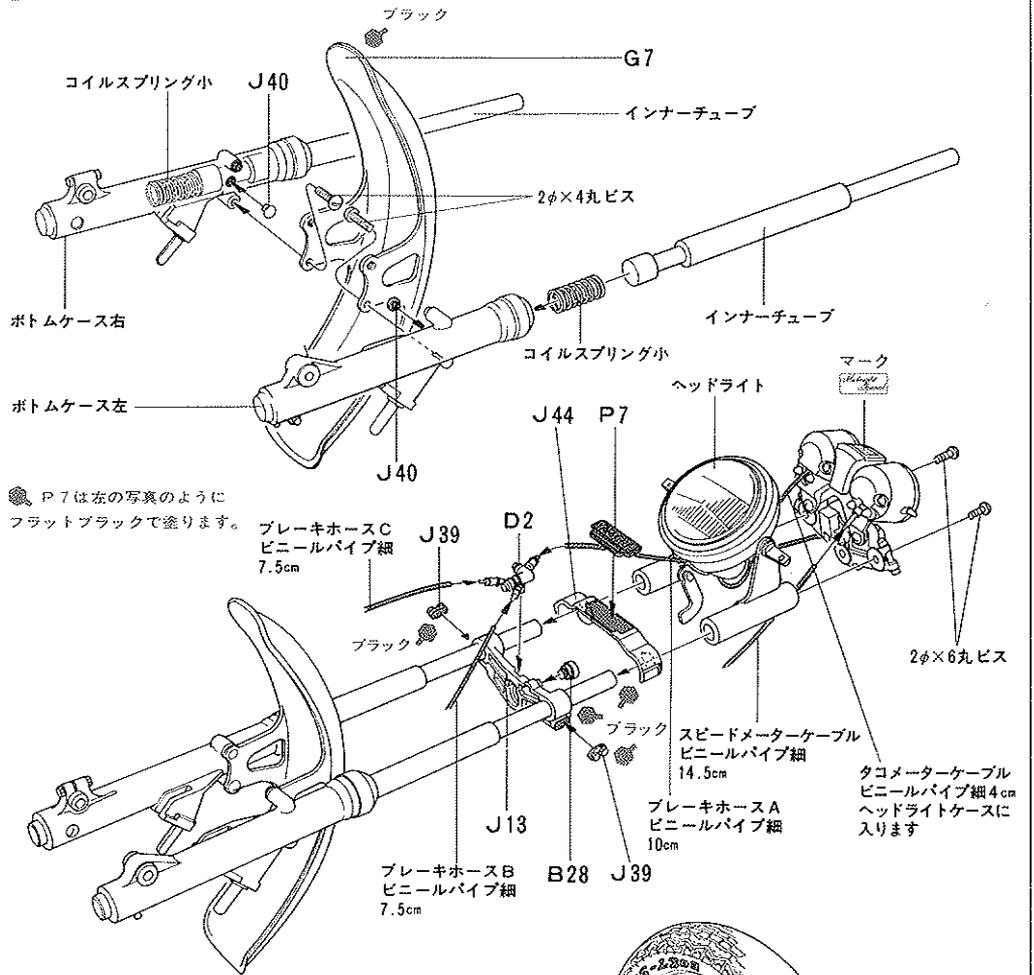
29 《ボトムケースのくみため》



30 〈フロントフォークのくみため〉



30 フロントフォークのくみため

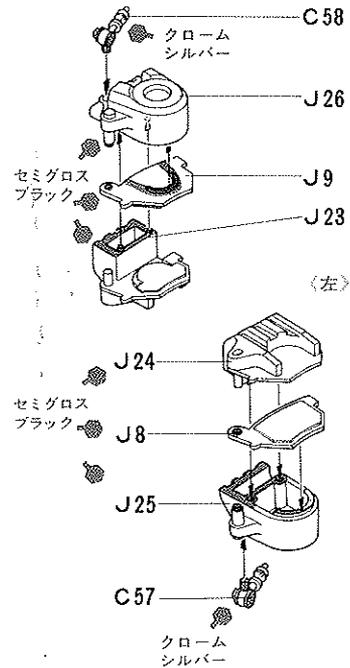


● P7は左の写真のようにフラットブラックで塗ります。

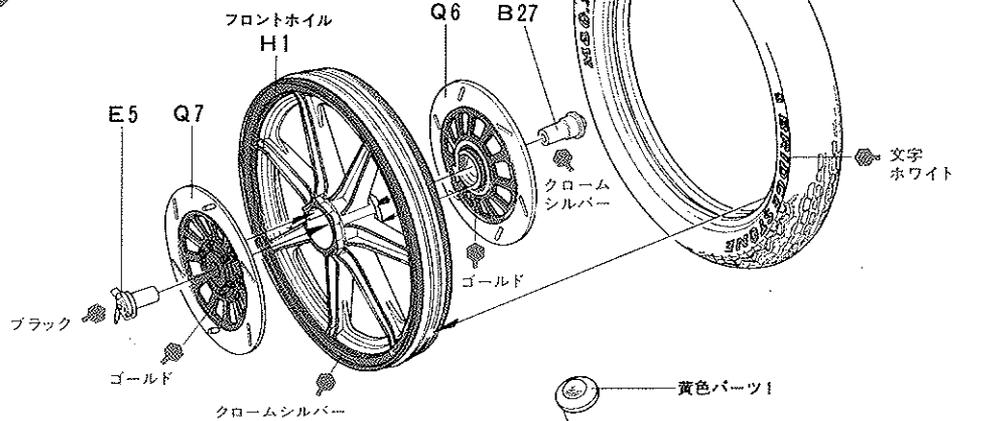
31 〈フロントホイールのとりつけ〉

〈ディスクキャリパーのくみため〉

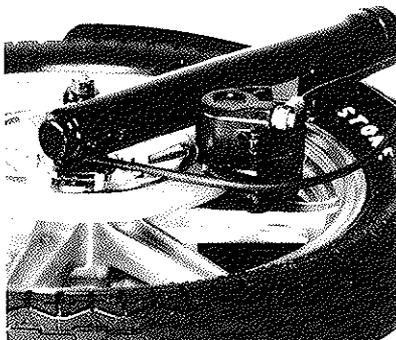
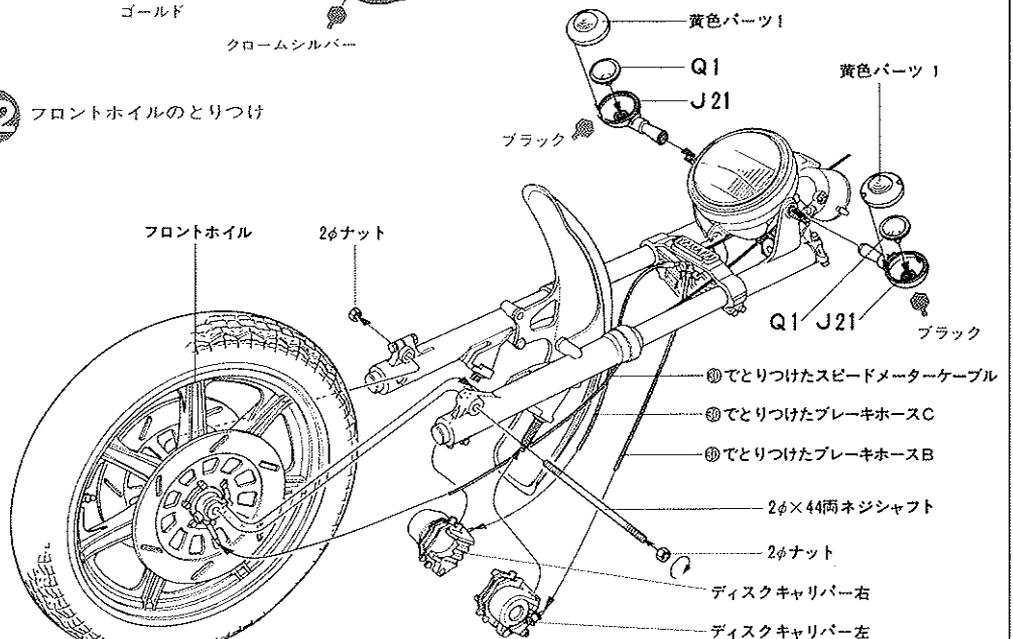
〈右〉



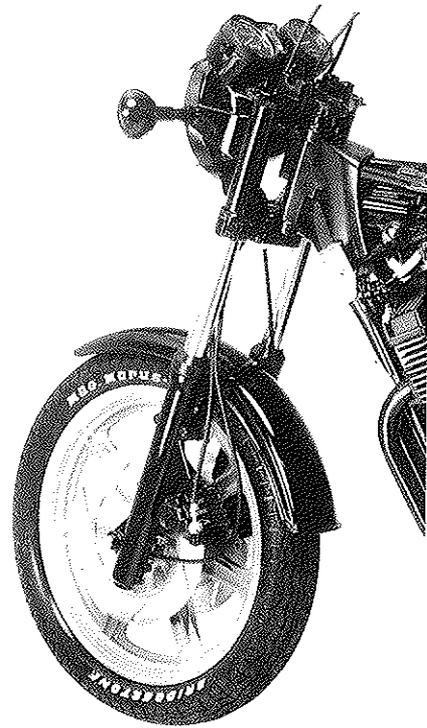
31 フロントホイールのくみため



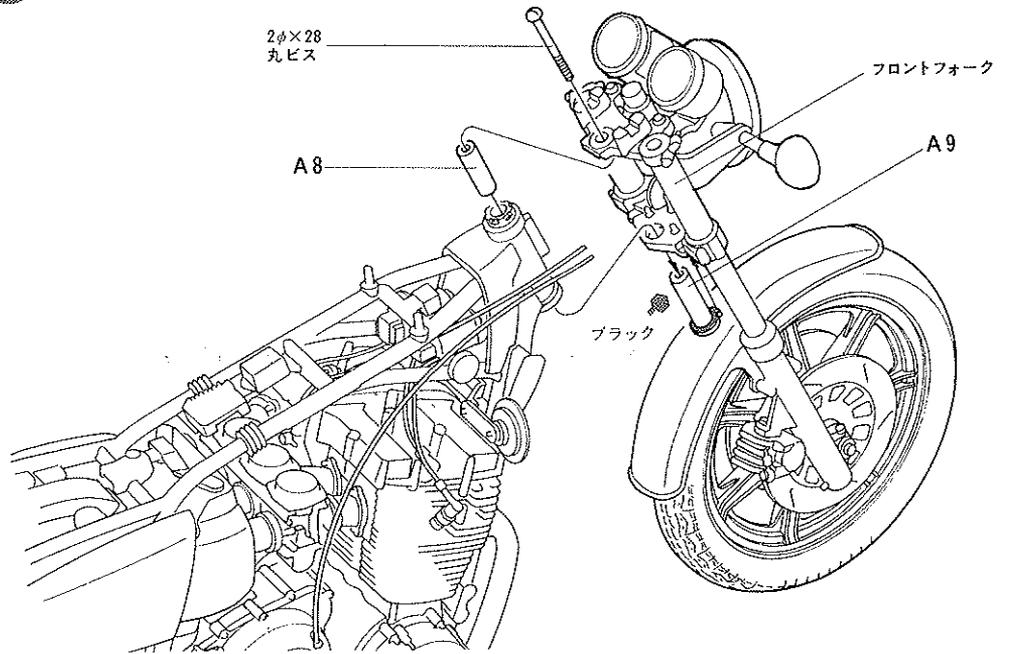
32 フロントホイールのとりつけ



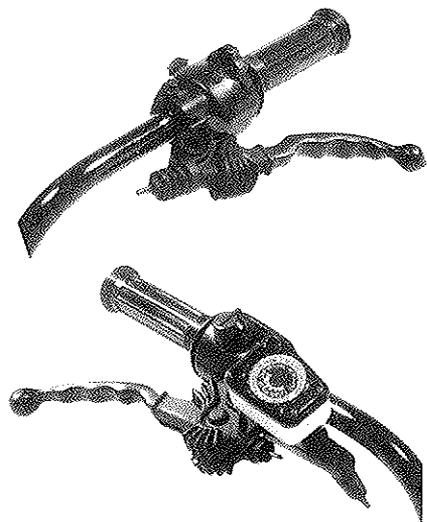
33 〈フロントフォークのとりつけ〉



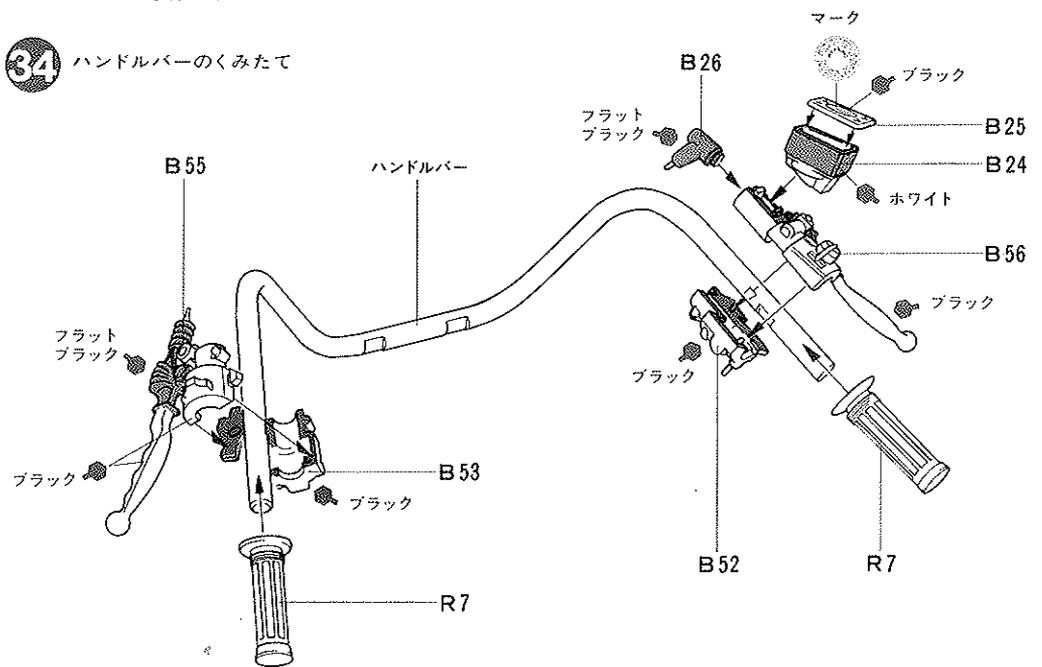
33 フロントフォークのとりつけ



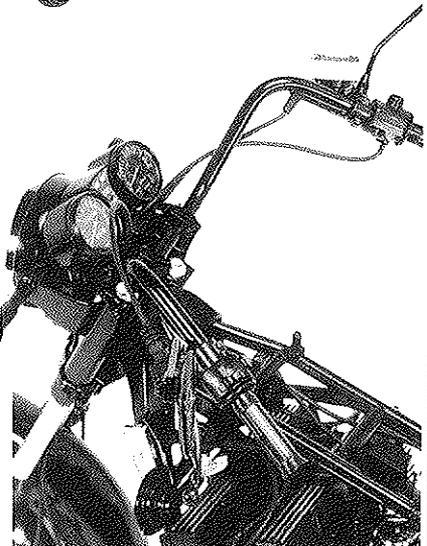
34 〈ハンドルバーのくみ込め〉



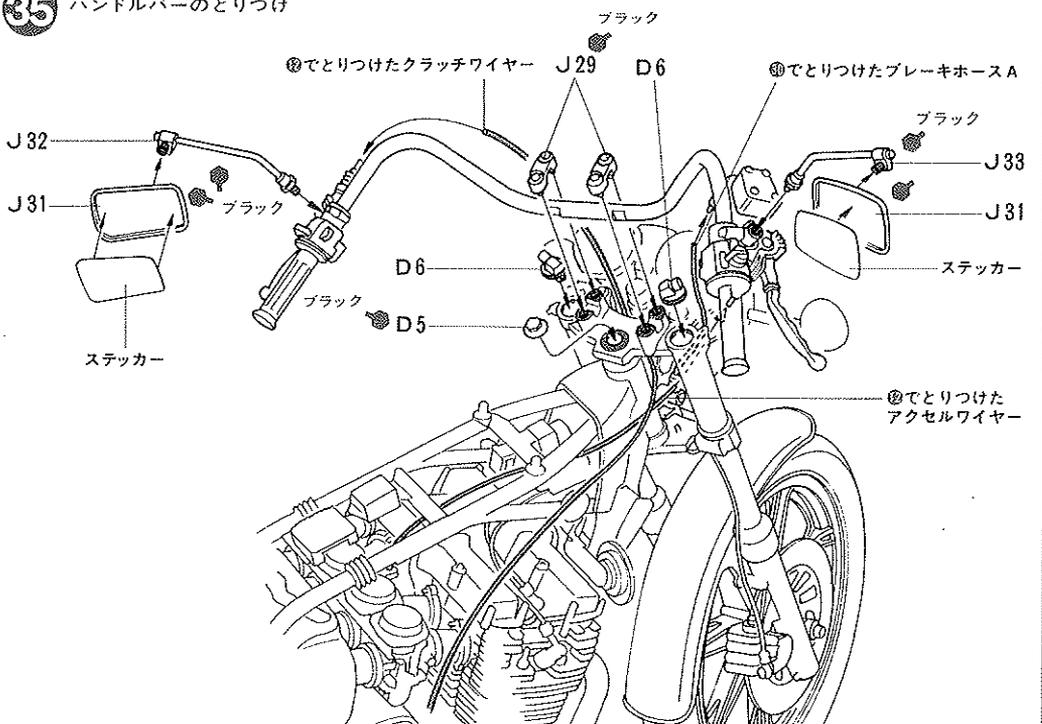
34 ハンドルバーのくみ込め



35 〈ハンドルバーのとりつけ〉



35 ハンドルバーのとりつけ

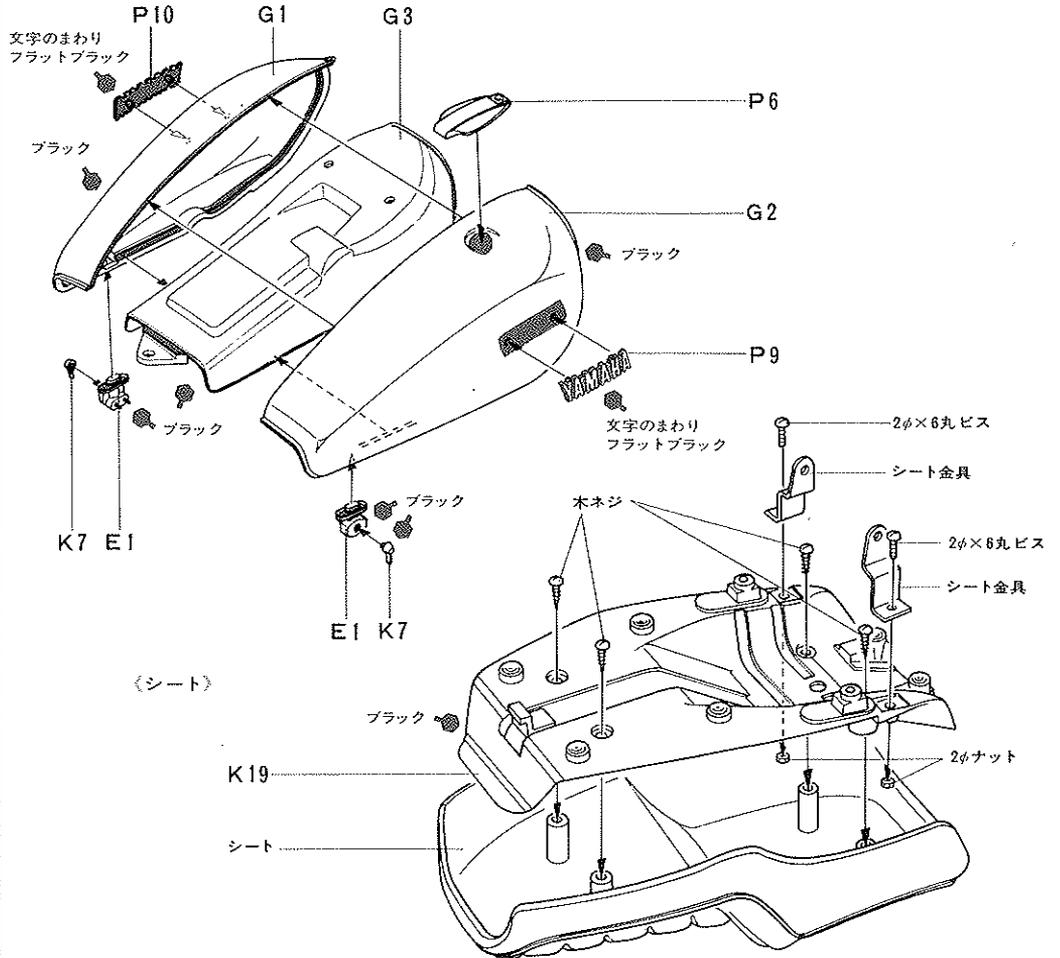


36 <タンクとシートのくみため>

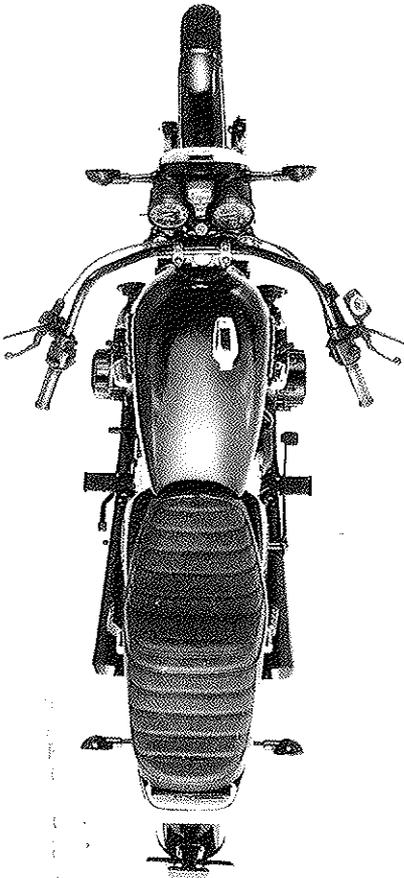


36 タンクとシートのくみため

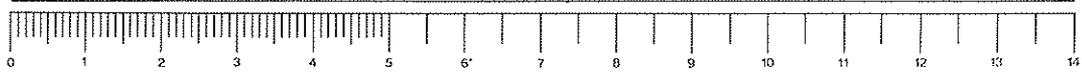
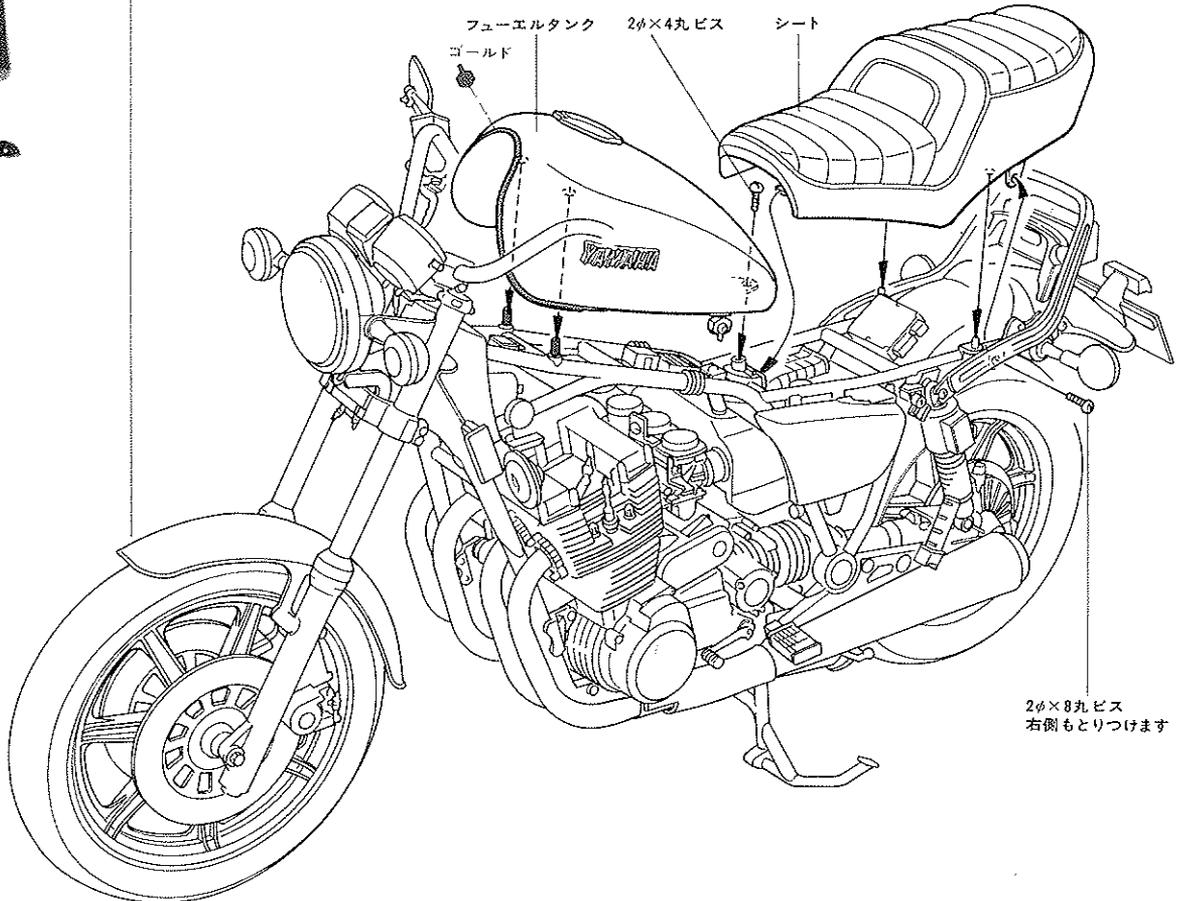
<フューエルタンク>



37 <タンクとシートのとりつけ>



37 タンクとシートのとりつけ



PAINTING & APPLYING DECALS

〈ヤマハ X S1100 L G の塗装〉

ヤマハの最高級オートバイのひとつ、ヤマハ X S1100 L G ミッドナイトスペシャルはブラックを基調にゴールドのアクセントを配したカラーリングが独特なイメージを作り出しています。キットでは黒部品の他、黒塗装、黒メッキ部品に加え、ゴールドメッキ、ゴールド塗装の施された部品により、ムードあふれるカラーリングを再現しました。タンクや排気管、フェンダーなどはプラスチックの成形色を生かしてクミヤカラーのクリアーを吹きつけるのもよいでしょう。なお、クリアーはマークを傷めることがありますから、マークを貼る前に吹きつけて下さい。細部の塗装は組立図中に示してあります。

〈塗装〉

塗装は各部品の色を変えるために塗るものではありません。各部品を塗装することでその部品のもつ形や働きをひきたせるのです。モデルの重量感を出すために多種類の色を使いわけてみましょう。

〈塗装する前に〉

各部品の塗装する面のゴミや手の油、ほこり等をやわらかい布でふき落して下さい。中性洗剤で一度洗っておけば安心です。接着剤のはみだした所などは塗装ではかき取れません。カッターナイフや目の細かいサンドペーパーで直しておくこと。パーティングライン（部品や金具の合せ目）もヤスリをかけて修正して下さい。部品は組立ててから塗装することがコツです。同じ色の部品は出来るだけ接着して、合せ目を修正してから塗装します。もちろん組立てて筆のとどかなくなる部品はあらかじめ塗装しておいて下さい。

〈塗装用具〉

筆、ときざら、ウエス(ボロ布)を用意して下さい。筆はデザイン用の筆を使います。平筆と細筆を使いますが、共に毛質がやわらかく穂先の長い筆が使いやすいでしょう。塗料を溶かすにはセトモノの皿を使います。画材店で梅皿を買っても良いでしょう。塗装がすんだ後、筆はラッカーシンナーで塗料を落とし水洗してから保存します。

〈塗料・溶剤を使用するときの注意〉

プラスチックの表面は、塗料が着きにくい性質をもっています。静電気等で付着したほこりや手の油等もよく除いておくことが大切です。

溶剤は少なめに使用するのがコツです。広い面積を筆塗りする時に

はなて、よこに平均に塗って下さい。塗料は必ずプラスチックモデル用を使用して下さい。また火気に十分注意して下さい。

〈使用する塗料〉

クミヤからは手軽に使えるスプレー式のクミヤカラーと筆塗り用エナメル塗料クミヤカラーが発売されています。色の正確なクミヤのカラーをお使い下さい。

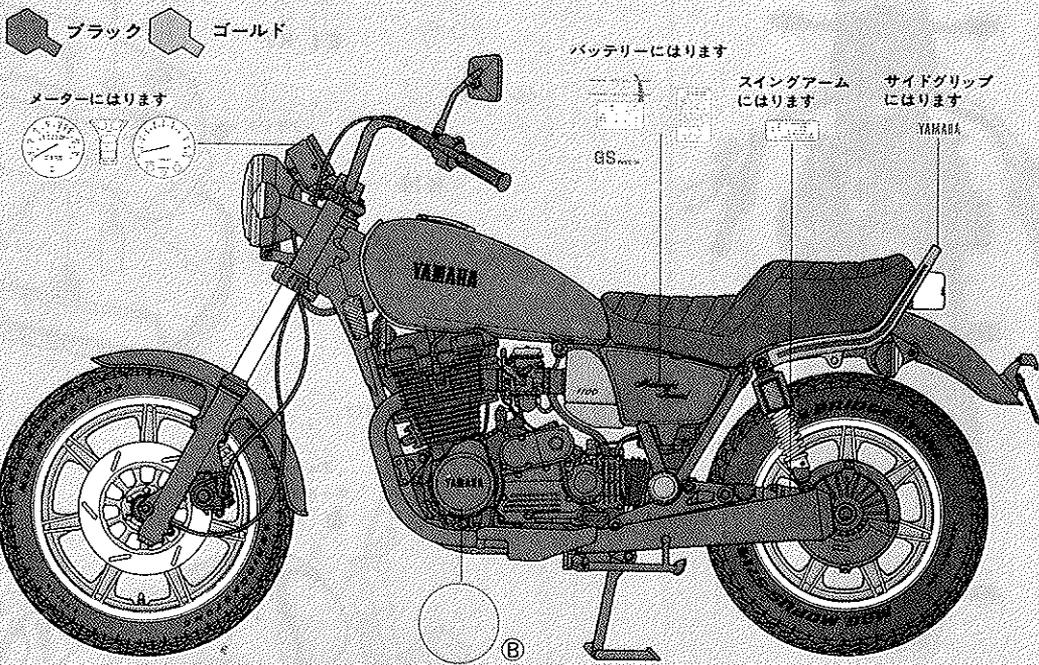
スプレー式クミヤカラーより

ブラック	TS-14
ゴールド	TS-21

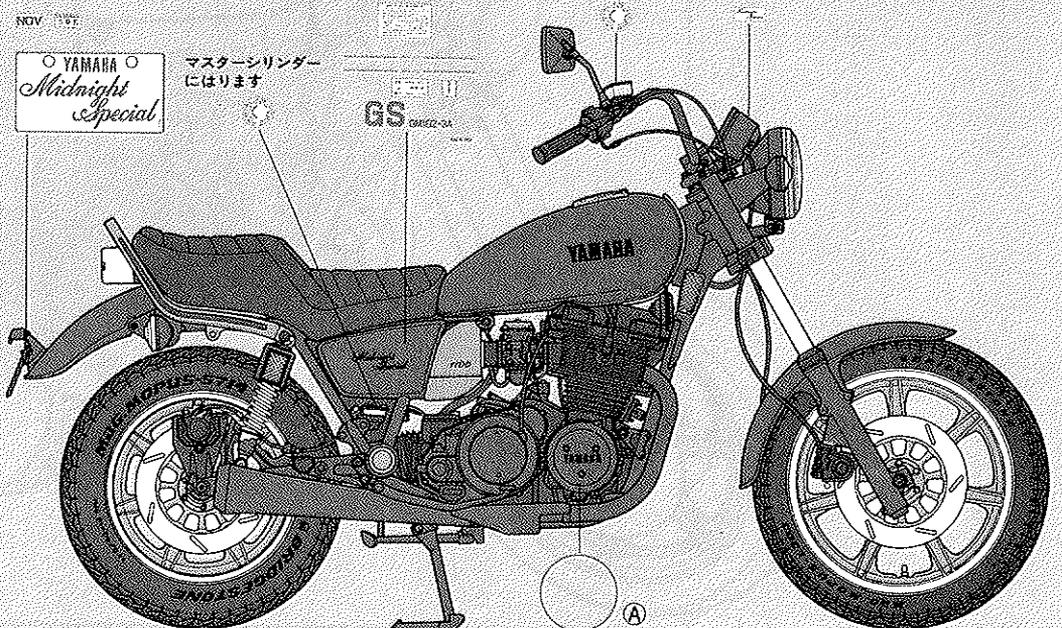
筆塗り用エナメル塗料より

ブラック	X-1
ホワイト	X-2
ロイヤルブルー	X-3
レモンイエロー	X-8
クロームシルバー	X-11
フラットブラック	XF-1
フラットアルミ	XF-16
メタリックグレー	XF-56

〈ヤマハ X S1100 L G の塗装とマーキング〉



ナンバープレートにはります バッテリーにはります マスターシリンダーにはります メーターパネルにはります



クランクケースにはります

〈スプレー式カラーの使い方〉

新聞紙、ボール箱、部品の入っていたビニール袋、ボロ布、セロファンテープ等を用意して下さい。風の強い日除て新聞紙を用意してほこりの立たないようにしてから塗装します。スプレー缶を上下によく振って缶の中の塗料をかきまぜてから塗料の混ざり具合を見るためにためし吹きして下さい。ためし吹きは、不用のボール紙やお菓子の箱などを使い、塗装するボディから20cmぐらい放して吹付けます。スプレー缶を同じ方向にすばやく動かして、シュッシュッと吹付けて下さい。塗装するボディより一回り大きなボディを吹付ける気持で塗装するのがコツです。

〈スライドマークのはりかた〉

1-〈マークを切りはらす〉
はりたいマークをハサミで切りとります。必ずズニス(透明な)部分

をきれいに切りとります。

2-〈マークを水にひたす〉
マークの台紙が弓状にまがった所で水からひき上げタオル等の布の上におきます。

3-〈マークをはる〉
1-2分してから紙のはしを手で持ち、マークをスライドさせて、モデルに移して下さい。

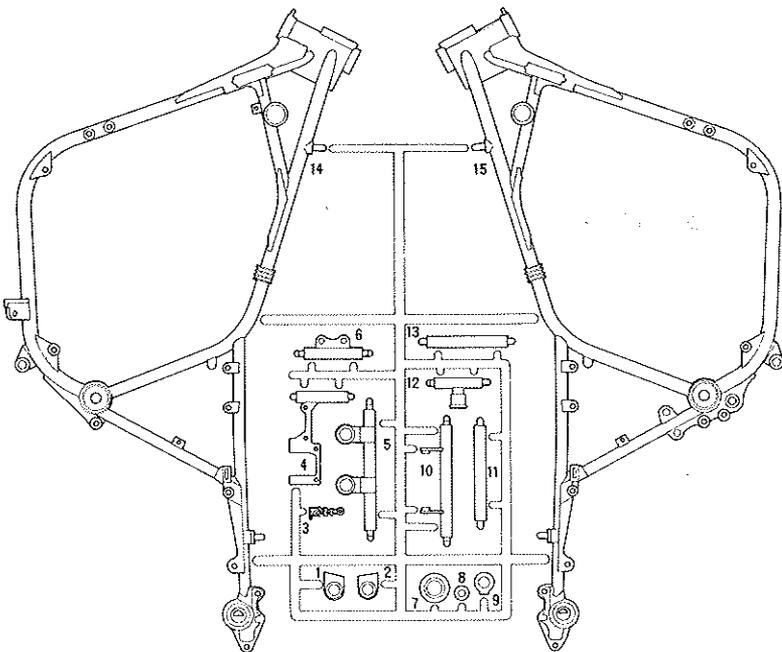
4-〈マークを正しい位置に移す〉
指に少し水をつけてマークをぬらしながら正しい位置に移します。

5-〈布で水分をとる〉
タオル等のやわらかい布でマークの内側の気泡をおし出ししながら、おしつけるようにして余分な水分をとります。

マークをはる場所が曲面や凹凸している時は、むしろタオルでマークをおさえて下さい。マークがモデルの形になじみやすくなります。

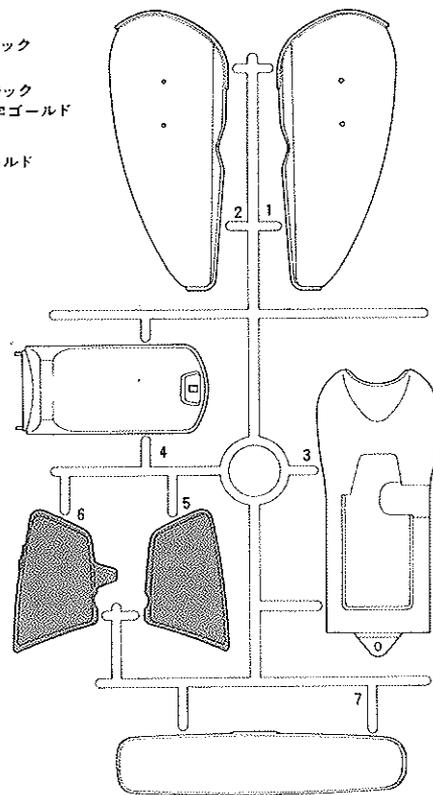
PARTS

A 部品  ブラック  セミグロスブラック

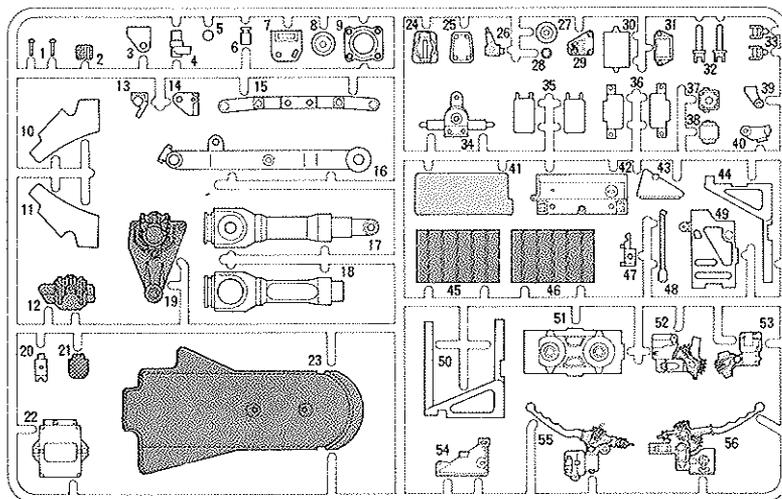


G 部品

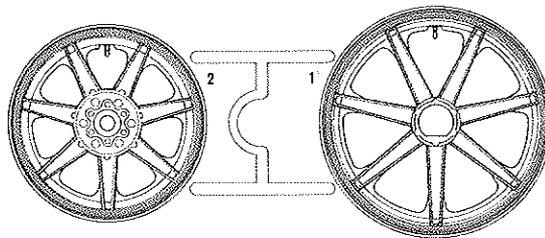
 ブラック
 ブラック
文字ゴールド
 ゴールド



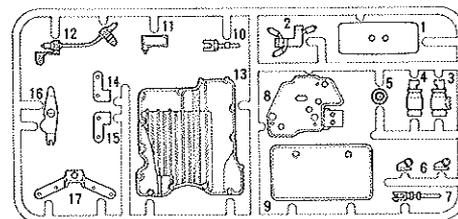
B 部品  ブラック  セミグロスブラック  フラットブラック  メタリック
グレイ



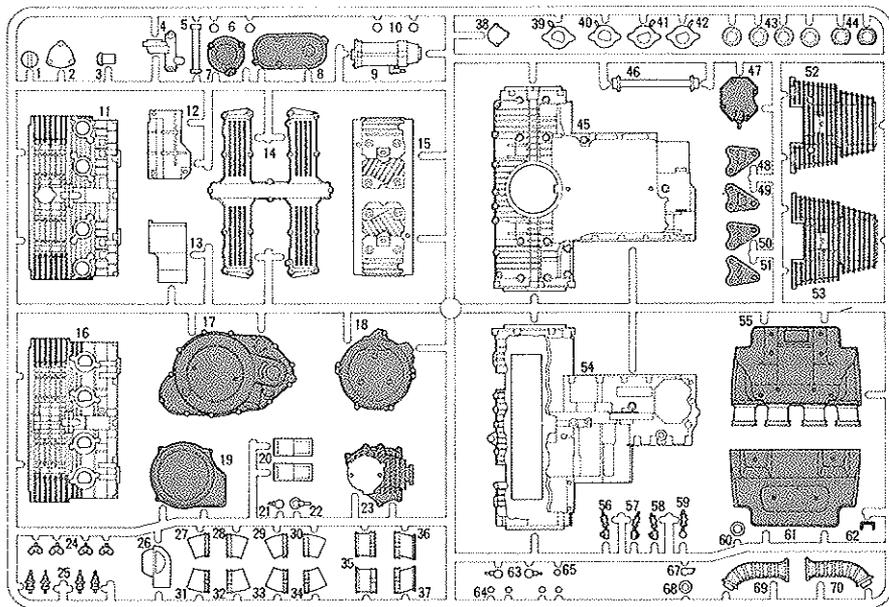
H 部品 (ホイール)  ゴールド  フラット
アルミ
 リヤホイール フロントホイール



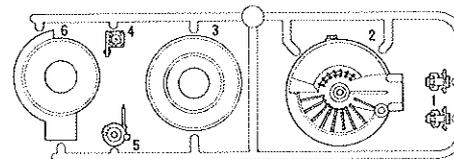
D 部品  メッキ  ブラック



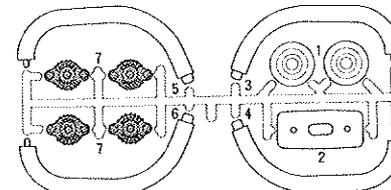
C 部品  ブラック  セミグロスブラック  フラットブラック  フラットアルミ  クローム  シルバー  ゴールド



E 部品  ブラック  ゴールド

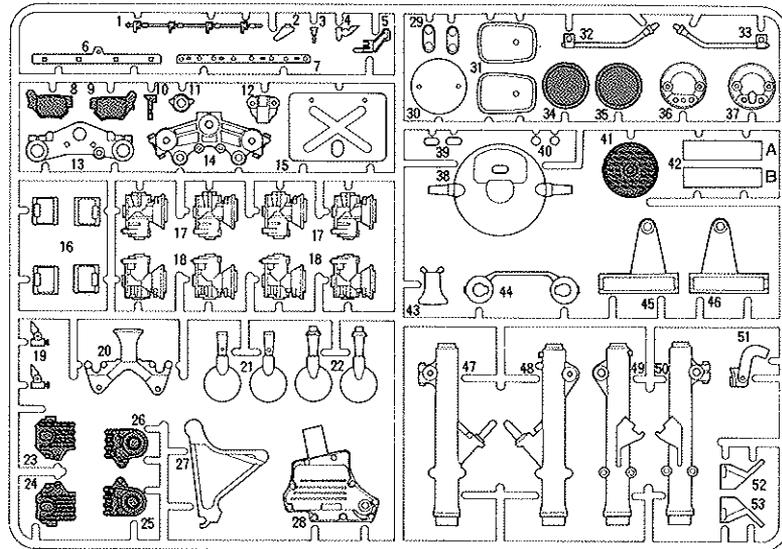


F 部品  ブラック  セミグロス
ブラック

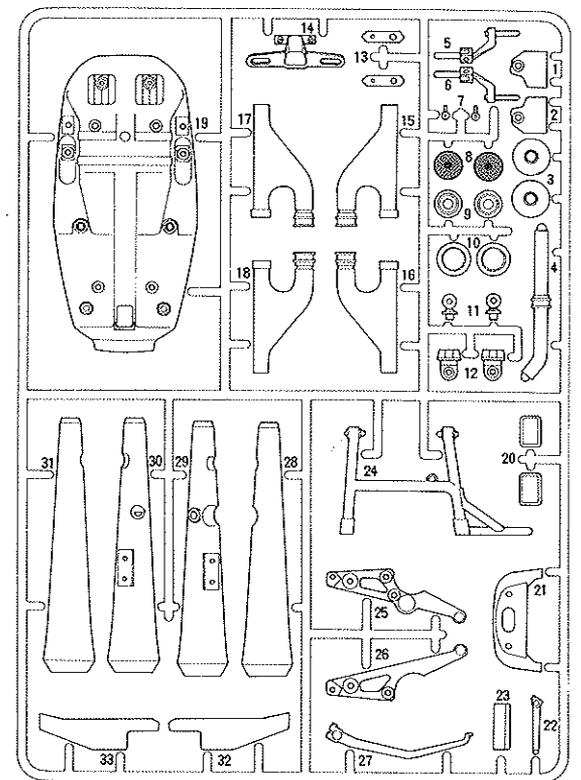


PARTS

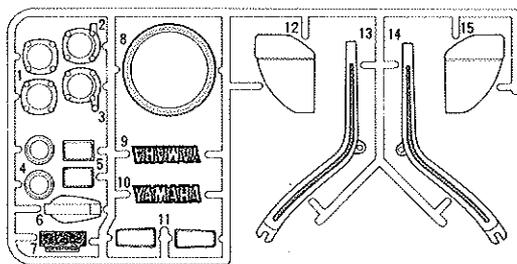
J 部 品 ブラック セミグロスブラック フラットブラック



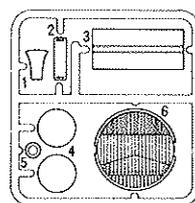
K 部 品 ブラック セミグロスブラック



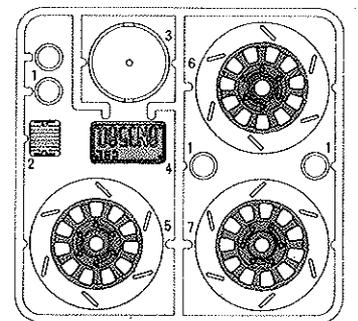
P 部 品 ゴールド フラットゴールド ブラック



S 部 品

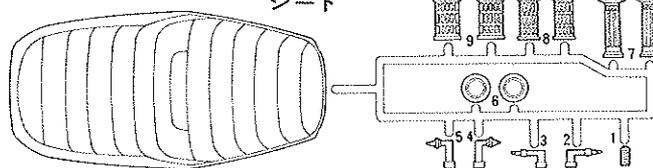


Q 部 品 ブラック セミグロスブラック ゴールド ロイヤルブルー 文字イエロー



★部品請求にはこのカードが必要です。
部品請求をなさる方はあなたの氏名、住所、郵便番号（できれば電話番号）を1字づつはつきりとお書き下さい。

R 部 品



YAMAHA XS1100LG MIDNIGHT SPECIAL 1/6 ヤマハXS1100LG

部品を紛失したり、破損なされた方は、このカードの必要部品を丸でかこみ代金を現金書留又は定額為替で田宮模型アフターサービス係までお申し込み下さい。

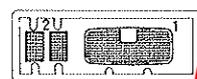
A 部品	620円
B 部品	520円
C 部品	720円
D 部品	420円
E 部品・F 部品	420円
G 部品	520円
H 部品	420円
J 部品	520円
K 部品	520円
P 部品	420円
Q 部品	420円
R 部品	420円
S 部品	270円
赤色パーツ	270円
黄色パーツ	270円
フロントタイヤ	470円
リヤタイヤ	520円
ビス袋詰(2コ)	320円
インナーチューブ(2コ)	320円
ハンドルバー	320円
コイルスプリング大(2コ)	170円
スイングアームシャフト	170円
2φ両ネジシャフト(2本)	170円
サイドスタンド	220円
シャフトブーツ	170円
ビニールパイプ細(150cm)	170円
マーク	170円
メタルステッカー	120円

1196 ★ITEM 16017

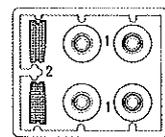
上記の価格は予告なく変更となる場合がございますので御了承下さい。

M 部 品 (プリスターパック)

赤色パーツ

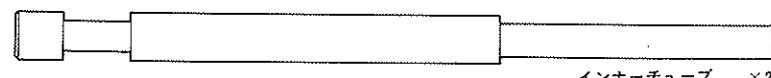
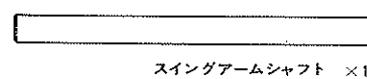
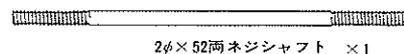
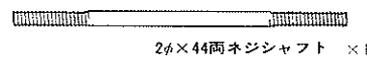


黄色パーツ

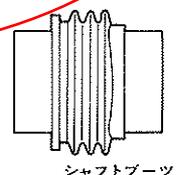
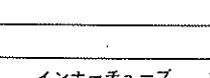
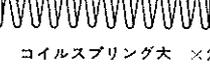


〈ビス袋詰〉

	2φ×28丸ビス × 3		2φ×4丸ビス × 10		引っぱりバネ × 3
	2φ×10丸ビス × 2		3φ×6丸ビス × 2		コイルスプリング小 × 2
	2φ×8丸ビス × 2		木ネジ × 4		シート金具 × 2
	2φ×6丸ビス × 13		2φナット × 10		ビニールパイプ 5cm



サイドスタンド × 1



シャフトブーツ × 1

ハンドルバー × 1

フロントタイヤ × 1

リヤタイヤ × 1

ビニールパイプ細 150cm × 1

マーク × 1

ステッカー × 1